

# 日本消防



● 都道府県における消防操法大会の結果

2  
2015

□ 絵 第41回消防団幹部特別研修 平成27年1月13日(火)から16日(金)	(公財)日本消防協会
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」好評放送中	(公財)日本消防協会
<hr/>	
巻頭言 みんなで手を携え、一丸となって危機に備える… (公財)大阪府消防協会	会長 秋田 治夫 …… 1
日消の動き 総合情報誌「地域防災」の創刊など …… (公財)日本消防協会	会長 秋本 敏文 …… 3
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」秋本会長 出演 …… (公財)日本消防協会	…… 4
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演者紹介 …… (公財)日本消防協会	…… 6
災害活動報告「平成26年8月20日の豪雨災害活動報告」	
…… 広島市消防団 連合消防団長 大野 富士雄 ……	9
東西南北(群馬県)『絆』を掲げて我が町を守ります。 …… 安中市消防団 団長 井上 豊 ……	12
東西南北(神奈川県)「市民の安心・安全を目指して」 …… 厚木市消防団 団長 井上 衛 ……	14
東西南北(鹿児島県)「わが町の誇りの消防団」 …… 西之表市消防団 団長 福井 清信 ……	16
シンフォニー(鳥取県)～いきいき、わいわい 楽しく活動～	
…… 伯耆町消防団女性消防チームリーダー 団員 樋口 春子 ……	18
都道府県における消防操法大会の結果 …… (公財)日本消防協会、各都道府県消防協会 ……	20
平成26年版消防白書の概要 …… 消防庁 総務省 ……	32
平成27年度 消防個人年金海外視察のご案内 決定版ドイツ街道くらべ8日間	
…… (公財)日本消防協会 年金共済部 ……	40
うちの名物団員 ……	42
共同で消防団PR活動を実施 …… 埼玉県 行田市消防団 ……	44
消防団の広場(石川県)地域の「安全・安心」を目指して～新たな決意で臨んだ出初式～	
…… 金沢市消防団連合会 会長 澤飯 英樹 ……	45
消防団の広場(福岡県)「男女がともに活躍できる消防団に向けて」	
…… 築上町消防団 団長 片峯 直志 ……	46

編集後記

### 表紙写真説明

秋間梅林は、50ヘクタールの広大な丘陵に約35,000本の紅白梅が咲き誇る、関東有数の規模を誇る梅林です。

秋間梅林祭を2月21日から3月末にかけて開催し、期間中にはモデル撮影会、和太鼓演奏、餅つき大会などの催しが行われ多くの観光客で賑わいます。

(群馬県安中市)

# 第41回消防団幹部特別研修

平成27年1月13日（火）から16日（金）

（公財）日本消防協会



ラジオ番組  
「おはよう！ニッポン全国消防団」  
好評放送中！

(公財) 日本消防協会



平成26年  
11月放送分に出演の  
平野啓子さん

平成26年  
12月放送分に出演の  
水前寺清子さん



平成27年  
1月放送分に出演の  
舞の海秀平さん



## みんなで手を携え、一丸となって危機に備える

(公財)大阪府消防協会 会長 秋田 治夫



大阪は、古くから西日本の経済・文化の中心地です。

その地形は、西に大阪湾を臨み、大阪平野の周りを北は北摂山地、東は生駒・金剛山地、南は和泉山地といった三方が山地に囲まれた盆地状の地形が特徴となっています。大阪平野の多くの土地は干拓や埋め立てによって形成され、昔から洪水や浸水の被害にあってきたため、数々の治水事業が行われて現在にいたっています。

その面積は約1,900km<sup>2</sup>と都道府県で2番目に狭いですが、人口規模は日本第3位の880万人であり、人口密度は日本第2位となっています。

この郷土大阪を守る消防団員数は、昨年10月1日現在、43団10,489人となっております。消防団員の減少が全国的な重要課題となっておりますが、ここ5年間の数字を見ますと、消防団員数は多少の増減はありますがほぼ横ばい、充足率も約93%を維持しています。この数字は、地元住民の皆さんが、団員数の減少は消防力の低下を招くとの思いによる努力の結果であると考えています。

大阪の大部分は都市型で、常備消防の整備が進んでいます。全国的な流れですが、消防団が活動する機会は火災現場等での後方支援、住民への予防啓発が多くなっています。また、昼間は地域に不在のサラリーマン団員の比率が高くなってきています。そのため、今後より一層、女性団員の活躍

が重要なものになっていくと思います。

女性団員を採用する消防団、団員数とも年々増加しており、平成5年に大阪で初めて採用されて以降、10年前には8団だったのが、昨年10月1日現在では府内消防団の約半数にあたる20団にのぼり、その人数は196人となっています。採用率、男女の団員構成比率は全国的に見て少し低いですが、新たに採用に向け動いている消防団もあると聞いています。

そこで、当協会では女性団員の活性化を図る事業として、各消防団における女性団員の活動内容や取り巻く課題などを話し合い、交流を図ることで活動の幅を広げる目的で、平成17年から「女性消防団員連絡会議」を設けています。各団の女性団員の代表1名が委員となり、会議では毎回時間が足りないほど情報交換が行われています。初めて採用された女性団員にとって、「自分たちは何ができるか」「何を求められているのか」不安とやる気が入り混じった中で日々活動している状況のもと、他団の先輩たちと交流を深め、豊富な経験を聞くことは大変有意義なことであると感じています。

昨年は、「大阪各地で女性団員が応急手当の普及活動を行なう際に活用できる体操を自分たちで作ろう」との発案により、それぞれの消防団に所属する団員が連携を密にし協力しながら、応急手当の手順を歌詞・振り付けにすることを考え、楽曲に至るま

で全てがオリジナルとなる体操を作成しました。この会議を通じ、所属を越えた活動ができていることは素晴らしく、今後の消防団のあり方を考えるにあたり参考になることと思います。

また、平成17年から全女性団員を対象に、2年に一度研修会を行なっています。活動発表や報告、講師を招いての講演、さらには交流を深める意見交換会といった内容で「全国女性消防団員活性化大会」の縮小版です。大変好評で、この経験を活かした女性団員の活動が各地で活発になっています。

次の課題として、高齢化が問題となっている消防団の将来を考えたとき、実動している若手団員から現場の意見や課題を吸い上げ今後活かすべきと考えました。そこで、一昨年より将来の中心的役割を担う若手団員を対象に研修会を行い、その中で、グループに分かれた課題討議を実施しました。日頃、他の消防団、ましてや分団間でも交流することが少ない若手団員は、消防団の垣根を超えた交流をし情報交換が出来たことで大変刺激を受けた様子で、その表情は充実感に満ちていました。この経験を活かした今後の活躍が期待されます。また、参加者から出た意見・悩みなどは消防団事務局や幹部が共有できるよう冊子にして各団に配布しました。人数の制限がありますが、今後もなるべく多くの団員に参加していただきたいと思います。

同様に、相互の交流を深め消防力の強化を進められるよう、組織を束ねる団長にも研修を受けていただいています。毎年実施している府内の消防長や消防主管部長などと一緒に行なう研修会に加え、昨年より、団長を複数のグループに分け、各消防団における装備、待遇、団員の確保対策などを討議してもらう研修を実施しました。

消防大会、表彰式を大阪府と共催で実施

している他、府内7つの地域にある当協会支部においても地域内の消防団を集めた消防大会や訓練・研修が活発に行われています。

当協会では、大規模災害時には、人口の集中する大阪では特に消防団の横のつながりが必ず必要になるとの思いから、このように府内の消防団を一同に集め、相互の交流ができる事業を積極的に実施し、消防団活動の活性化を図っています。

中央防災会議が示した南海トラフ巨大地震に係る被害想定は、発生頻度が低いもののひとたび発生すれば、これまで想定しなかった甚大な被害をもたらすとともに、経済中枢機能が集積している大阪に対する打撃は、国家としても大きな損失となることが明らかとなっています。

災害の発生を防ぐことは不可能ですが、「減災」を基本に、たとえ被災したとしても人命が失われないことを最重視し、また経済的被害も小さくなるよう努めなければなりません。

一昨年、当協会は設立65周年を迎え、その記念事業として、尊くも消防の使命に殉じられた消防団員・職員の名を刻んだ銘板之碑を建立しました。これは、先達による消防に対するご尽力、そして、多くの尊い犠牲があったことを改めて認識し、なお一層の消防体制の構築を誓うために実施したものです。建立に際し、一般の方や企業、消防団員・職員、消防関係者などから多大なご寄付をいただき、誠に感謝に堪えません。同時に、悲しい思いをする仲間や家族をこれ以上増やしてはならないと熱く思いました。

今後もより一層、災害に強い大阪を目指すべく、自治体、消防関係者、企業、住民の方々々と手を携え大阪がまさしく一丸となり、地域防災力の充実強化を図れるよう積極果敢に取り組んでまいりたいと考えています。

## 総合情報誌「地域防災」の創刊など

(公助)日本消防協会 会長 秋本 敏文

「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨実現は、消防関係者すべてが当面する大きな課題です。そのため、昨年8月、これを国民運動的に進めることをめざして、消防防災関係以外の皆さんにもお集まり頂く初の国民的大会を開催するなどいろいろやっています。

平成27年は、同じ考え方で、新たに「地域防災」という防災に関する総合的な情報誌を創刊しようと思っています。これまでも、この「日本消防」や少年消防クラブの情報紙など個別のものがありますが、地域防災をテーマとしてさまざまな関連情報をひとつにまとめた総合的な情報誌はありませんでした。そこで、この一冊を見れば、地域防災についての国や地方公共団体の政策の動向、有識者の方々のご意見、消防団や女性防火クラブ、少年消防クラブ、自主防災組織、企業の自衛消防組織、いろいろな団体、大学などの動き、さらにはそれらの関係の皆さんの共同活動などの動きがわかる情報誌を創刊しようとするものです。

これを見れば、消防防災関係の皆さんが一通りの関係情報を知ることができるほか、これを広くご覧頂くことで、防災に直接関係しておられない方にも地域防災のことを知って頂くことができ、地域防災に関心をもって頂く機会になることを願っています。

平成27年4月号が創刊号として刊行されますが、資金面の事情から、実は僅かに32頁です。到底十分な紙面とはいえません。そして、毎月でなく隔月刊です。残念ですが、しかし、全国に4万部さしあげます。発行者は、私がこちらも会長をしている日本防火・防災協会ですが、勿論消防団とも深い関係がありますので、日消も協力しますし、消防庁、内閣府、全国消防長会、地方団体など幅広くご協力を頂く体制をつくって頂いています。

とに角始めてみて、皆さんのご評価を頂くことができればもっと充実できると信じてやるほかありません。これをキッカケに情報共有が進み、地域の災害対応についての新たな展開が進むなど、地域の安全向上に役に立つようにみんなで努力しなければならないと思います。

全国の消防団、常備消防の皆さんのご理解ご協力をお願いします。

そのほか、少年消防クラブ全国交流大会の開催やポーランドでの青少年消防オリンピックへの派遣などありますが、機会をあらためて申し上げます。

# ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」

秋本会長 出演 (放送日 平成27年1月3日、4日)

(公財)日本消防協会

**山本アナウンサー**：「おはよう!ニッポン全国消防団」、改めまして今日のゲストは公益財団法人日本消防協会の秋本敏文会長です。明けましておめでとうございます。

**秋本会長**：おめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

**山本アナウンサー**：こちらこそどうぞよろしく申し上げます。さて、昨年を振り返りますと度重なる台風の被害、広島土砂災害、御嶽山の噴火、更には長野県北部地震など、実に様々な災害に見舞われてしまったわけですが、会長はどんな感想をまずお持ちでいらっしゃるでしょうか？

**秋本会長**：東日本大震災から間もなく4年になるんですけど、あの時「想定外」という言葉がよく使われました。今、お話にありました最近の災害も、これまでの経験では考えられなかったようなものがたくさん出てまいりました。火災も後を絶ちません。そしてこれはもう他人事とは言えないような状況になってまいりました。全国、いつでもどこでも何でもあるくらいの覚悟が必要になったと思います。

**山本アナウンサー**：一昨年、平成25年の12月でしたね？消防団新法、新しい法律、これが国会で成立したということがありまして、消防団、更には日本消防協会にとりましては大きなニュースだったと思うんですが、改めて消防団新法について教えていただけますでしょうか？そして、また消防団新法に基づいた消防防災体制とはどんなものかお話しいただけますか？

**秋本会長**：東日本大震災の後に、私も新しい法律の制定を提案をしたんですけども、国会議員の方々にご尽力いただきまして実現したのがこの新しい法律です。主な内容はふたつあるんですけども、ひとつは、消防団は地域防災の中核として不可欠のものである、そして、一層充実強化するということ。そしてもうひとつは、地域の皆さん、これは、一般の住民の方々だけじゃなくて、企業とか団体とかいろんな方々に加わっていただいて、言わば地域の総力を結集した地域の防災力を強化するということでもあります。

**山本アナウンサー**：そして、昨年8月には東京国際フォーラムで消防団を中核とした地域防災力充実強化大会が開催されましたが、これはいったいどんな大会となったんでしょうか？

**秋本会長**：消防関係者だけでなく、広く各界の方々にも地域防災力の強化が大事だと、こういうことを認識していただく、ご参加いただくということが必要ですので、いろいろ関係の方々のご相談しまして、8月に各界のトップの方々に発起人という形でご参加いただき、そして、初めての国民的な大会を開催したというものであります。内容がある盛大な大会にすることができたんじゃないかと思います。問題は、この大会成功で終わるとい



ことではなくて、全国各地でもこのような動きを展開していただく、そういうことに発展していくことが必要ですので、大会の最後にそのような申し合わせをしていただきました。

**山本アナウンサー：**なるほど。ところで、今年、平成27年はですね、消防団新法施行後、実質初年度とも言えると思うのですが、会長ご自身どんなことに期待をされていますか？

**秋本会長：**消防団の装備や処遇の改善、地域防災力強化への新しい事業など、予算を伴うものにつきましては、国でも、県、市町村でも27年度をスタートとして必要な予算を確保していかなければなりません。私どもは国の方にも、地方に対してもそういうことで取り組んでいただくようお願いをしているところです。

**山本アナウンサー：**なるほど。それからですね、秋本会長は今、変化への対応が必要と言われておられるということなんですが、これはどういう意味合いのことなんでしょうか？

**秋本会長：**ひとつは、消防活動の対象となる様々な災害の変化です。最初にも話が出ましたけれども、最近、これまでの経験では考えられないような局地的な集中豪雨でありますとか、大雪とか、竜巻、いろんなものがあります。これからの大規模な地震の発生も気になります。こうしたものを今はもう想定外と言って済ますことはできません。こういうことを正面から受け止めるということ。それともうひとつは、世の中の変化ということだと思います。人口減少ということがあります。あるいは、自営業の人が減ってお勤めの人が増えてくる、しかもお勤め先が住所地以外であるというような方が増えている。あるいは地域への帰属意識と、地域のコミュニティが段々変化してきている、薄れてきているというようなことも言われます。こういうような世の中の変化にどう対応するか、これは特に消防団にとっては団員確保の問題にも繋がる大事な課題だと思っております。

**山本アナウンサー：**分かりました。色々とお話しを伺ってまいりましたが、そろそろお別れの時間になりましたので、最後に秋本会長から全国の消防団の皆さんと、そのご家族にメッセージをお願いいたします。

**秋本会長：**消防団員の皆さんがご家族を含めて、日頃から一生懸命やっただけに深く感謝申し上げます。そして敬意を表したいと思います。ご苦労が多いと思うんですけれども、これまでお話ししましたようないろいろな災害がありますので、これからも力を尽くしていただくようによろしくお祈りしたいと思います。その時に、消防団自身の充実、あるいは装備の改善これも必要なんですけれども、常備消防とも情報の共有など連携をしながら、そして、地域にあっては中核的な役割を果たしていただきながら、地域の皆さんとご一緒に防災体制を強化するためにご尽力いただきたいと思います。女性防火クラブ、少年消防クラブなどを含めて、地域との繋がりを一層強化するようにしていきたいと思います。

**山本アナウンサー：**はい、分かりました。「おはよう!ニッポン全国消防団」、新年一回目の今日は公益財団法人日本消防協会の秋本敏文会長を迎えてお送りいたしました。会長どうもありがとうございました。

**秋本会長：**ありがとうございました。よろしくお祈りいたします。

# ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

(公財) 日本消防協会

日本消防協会では、芸能界、スポーツ界等の著名な方々により結成された「消防応援団」のご協力を得て、全国各地で頑張っている消防団員にエールを送るとともに、一般の方々にも消防団活動等について理解を深めてもらうため、消防団に関するラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」を放送しています。

今回は、平成26年11月から平成27年1月までに放送した出演者を紹介します。

平成26年11月放送分に  
出演の消防応援団  
平野啓子さん

11月8日又は9日放送



茨城県阿見町消防団

団員 土子 紗也香さん (写真左)

団員 渡部 志保さん (写真右)

初めてのラジオ出演で、とても緊張しましたが、平野さんと楽しくお話することができました。これからもっと大学生が消防団に興味を持ち、入団してくれると嬉しいです。

11月15日又は16日放送



静岡県

沼津市消防団

副団長

成島 安司さん

沼津市出身の平野啓子さんと電話で対談ができ、大変感激しています。収録では緊張のためか上手く話せなかったような気がしています。これからも、住民のために微力ではありますが頑張りたいと思います。



11月22日又は23日放送



滋賀県

野洲市消防団

班長

梅本 和子さん

私は消防団の仲間が大好き！この繋がりを強く大きくしていくためにあなたの力が必要です。私もあなたも地域の防災リーダーです。

11月29日又は30日放送



和歌山県

串本町消防団

団長

谷口 好布さん

今回のラジオ収録で貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。町のPR及び消防団の実情を収録できたことは、非常に有意義で有り、今後の消防団活動並びに消防団促進に活かして行きたいと思っています。

平成26年12月放送分に  
出演の消防応援団  
水前寺清子さん



12月6日又は7日放送



福島県  
富岡町消防団  
班長  
阿部 祥久さん

操法を通じて築き上げたこの絆を大切に、感謝の気持ちを忘れず、我々の活動が町の復興を後押しできるよう今後も頑張ります。

12月13日又は14日放送



千葉県  
八千代市消防団  
団員  
鎌田 和代さん

全国女性消防団員活性化ちば大会での発表、そして水前寺清子さんとのラジオ対談、人生最大級のサプライズが次々とおこり、恐悦至極でございます。有難うございました。

12月20日又は21日放送



岡山県  
岡山市消防団  
班長  
中山 龍哉さん

今回のラジオ出演、水前寺清子さんとのラジオ対談、ありがとうございました。非常に話しやすく、盛り上げてくださったので、楽しい時間が過ごせました。

12月27日又は28日放送



長崎県  
杵岐市消防団  
団員  
村田 博城さん

水前寺さん、山本さん、ありがとうございました。長崎県の杵岐市という小さい島ですが、皆様知って頂ければ嬉しいです。



平成27年 1月放送分に  
出演の消防応援団  
舞の海秀平さん

1月10日又は11日放送



兵庫県  
(公財)兵庫県消防  
協会 会長  
岸谷 義雄さん

出演させて頂き、ありがとうございました。  
お話を頂いた舞の海さんへ、消防応援団での  
活動に感謝致します。  
震災の教訓を次世代へ継承し、今後も、消防団の  
充実・強化のため精進してまいります。また、兵  
庫へお越しく下さい。

1月17日又は18日放送



新潟県  
小千谷市消防団  
団長  
本田 剛さん

中越地震について、舞の海さんとお話ができ嬉し  
く思っております。  
地震から十年が過ぎ地域は復興しましたが、当時  
の被害や苦勞が思い出され、災害に対する備えの  
重要性を再認識しております。

1月24日又は25日放送



長野県  
(公財)長野県消  
防協会 会長  
吉竹 行仁さん

ラジオ番組に出演させていただき、ありがとうご  
ざいました。  
私たちの活動を全国の皆さんにお伝えてきたこ  
と、本当にうれしく思います。  
これからも、皆で心を一つにして愚直に頑張りま  
す。

1月31日又は2月1日放送



青森県  
おいらせ町消防団  
分団長  
立花 友子さん

今回は、ラジオ収録という貴重な体験をさせてい  
ただき、ありがとうございました。これからも、  
家族一同消防団員として地域のために活動してい  
きたいと思います。

# 「平成26年8月20日の 豪雨災害活動報告」

広島市消防団 連合消防団長 大野 富士雄



### 1 はじめに

平成26年8月20日に発生した豪雨災害では、74人も尊い命が奪われるなど甚大な被害をもたらしました。この災害により犠牲になられました方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様にお見舞い申し上げます。

また、この度の災害に対しまして、(公財)日本消防協会をはじめ、全国の皆様から多大なるご支援、ご協力をいただきましたことを、この場をお借りしまして心よりお礼申し上げます。

### 2 広島市の紹介

広島市は、昭和55年4月1日に政令指定都市に移行し、現在8行政区を設置しており、人口1,187,224人（平成26年4月末）を有する中四国最大の都市となっています。



人類史上初めて原子爆弾が投下された都市として、世界的にも知られており、その象徴である原爆ドームは世界遺産にも登録されています。

地勢は、広島県の南西に位置し、総面積は905km<sup>2</sup>で、中国山地を背に南は瀬戸内海に面しています。市の中心部を流れる太田川の河口に開けた三角州上に市街地が形成され、それを取り囲むように西部・北部・東部は丘陵地帯となっており、その面積は市域の80%を占めています。一方、南部の広島湾には、金輪島・峠島・似島・大カクマ島・小カクマ島・津久根島等が点在しています。

気候は、沿岸部から中山間地域までを市域にもつため複雑で、日本海側気候と瀬戸内海式気候の境界にあたり、夏は暑く、瀬戸内海特有の風も発生します。

### 3 消防団の概要

広島市消防団は、昭和55年4月1日、政令指定都市に移行以来、1行政区1消防団を置き、平成26年4月1日現在、8消防団、84分団、定員2,753人（実員2,674人、うち女性消防団員141人）で組織しています。

装備として、消防ポンプ自

動車32台、小型動力ポンプ積載車124台及び小型動力ポンプ292台を保有し、火災をはじめ、風水害など様々な災害に的確に対応するなど、地域防災の要として日々活動しています。



#### 4 被害概要

8月19日19時頃から降り始めた雨は、同日23時過ぎにいったん小康状態となりましたが、20日0時過ぎに広島市北西部及び廿日市の山間部にかけて新たに積乱雲群が発生し、発達しながら東に移動しました。広島市の安佐南区及び安佐北区の上空では、20日1時40分頃から再び雨が降り始め、降水系の停滞とともに雨足が急激に強くなり、2時から4時までのわずか2時間に200mmを超える猛烈なものとなり、安佐北区可部、安佐南区八木・山本・緑井などの住宅地背後で同時多発的に大規模な土石流が発生しました。

この豪雨災害では、死者74人、負傷者は、重症47人、軽症22人。被害家屋は、全壊179棟、半壊217棟など計4,749棟。農林業関係の被害額は、農地・農林業用施設が計約16億円、農作物が計約4,260万円に上り、今もなお公営や民間の住宅に多くの避難者が仮住まいを余儀なくされています。

#### 5 消防団の活動

8月20日の未明から降り始めた大雨に伴い、同日3時30分に広島市の安佐南区及び安佐北区に災害対策本部が設置されたことを受け、同区を管轄する安佐南消防団及び安佐北消防団に召集をかけました。安佐南

消防団では12分団115人、安佐北消防団では17分団188人が参集するとともに、まだ夜が明けぬ中、土石流による2次災害の危険がある中、常備消防と連携して人命救助活動や行方不明者の捜索にあたりました。

また、災害規模から、より多くの人員を投入する必要があると判断し、同日10時に被害の少なかった中区、東区、南区及び西区の4消防団にも応援出動を要請し、8分団41名が加わり、人命検索救助活動を実施したほか、翌21日からは市内の8消防団全てが協力して対応にあたりました。

一方、災害により避難所が開設され、多くの被災者が避難所生活を余儀なくされていることから、女性消防団員に避難所の運営支援活動を実施させるべきと判断し、21日から2か所の避難所へ女性消防団員を派遣し、食料や救援物資の配布、施設の清掃のほか、避難者の相談に応じるなど、きめ細やかな活動を実施しました。

##### (1) 人命検索救助活動

発災直後から、土石流により人的被害を受けた安佐南区及び安佐北区において逃げ遅れた人の救助活動を実施し、その後は行方不明者の捜索活動を実施しました。8月の猛暑の中、過酷な災害現場活動が連日続

きました。消防団には重機などの機材はなく、まさに人海戦術です。土砂災害であるがゆえ、土砂には大きな岩や流木も交じっており、人の手には負えないところもありました。それでも、「一刻も早く助け出す。」という信念を胸に、シャベルやパールなどにより土砂や流木を取り除きながら捜索を行いました。

8月28日には、広島市近隣8市町の消防団から消防団員41人の応援を受け、協力して捜索活動を実施しました。

9月10日、行方不明者が2人となったことや捜索箇所が限定されてきたことから、消防団による捜索活動を終了しましたが、8月20日からの22日間で、延べ3,861人の消防団員が人命検索救助活動等を実施しました。

## (2) 避難所での運営支援活動

避難所での運営支援活動は、もともと女性消防団員の活動任務には位置付けていませんでしたが、女性ならではの活動ができるのではないかと、女性消防団員の支援要望があった2か所の避難所へ、発災翌日の21日から安佐南消防団の女性消防団員を派遣しました。当初は施設管理者との連携もままならず、支援活動の要領を得ませんでした。日ごとに慣れて対応も板につき、女性消防団員が主体的に動き、活動内容を決めるなどして、支援活動を確立していきました。また、支援活動は長期に及ぶことが予想されたことから、23日からは市内の7消防団からも女性消防団員を派遣し、9月19日までの30日間で、延べ319人が支援活動を行いました。

避難者からは、「女性消防団員は常に活



避難所に届いた段ボールベッドの作成状況

動服を着ていることから、身分が明らかで、安心して話したりお願いしたりできる。」との評価を得ました。

## (3) 避難勧告継続地域の警戒巡視活動

避難勧告が継続していた安佐南区及び安佐北区では、依然土石流による2次災害の危険があることから、安佐南消防団及び安佐北消防団では9月30日までの間で、延べ578人が夜間の警戒巡視等に当たりました。

## 6 おわりに

この度の豪雨災害は、私たちがこれまで経験したことのない災害であり、既存のマニュアルどおりの活動は困難な状況でした。この度の災害活動を通じて、消防団の活動任務や装備資機材、女性消防団員の活動分野など、多くの課題が見つかりました。一方では、被災地を管轄する消防団に限らず、市内の8消防団が一致団結して人命検索活動や避難所での運営支援活動を実施したことにより、各消防団の絆を深める機会にもなりました。

今後は、この度の災害の教訓を生かし、地震や風水害等の大規模災害に、広島市の8消防団が団結して、的確に対応していくことを誓い、活動報告とさせていただきます。



## 『絆』を掲げて 我が町を守ります。



安中市消防団 団長 井上 豊

### 1 安中市の紹介

安中市は平成18年3月18日に旧安中市と旧松井田町が新設合併して誕生した人口6万1千人の市で、群馬県の西部に位置し、周囲は高崎市・富岡市・下仁田町・長野県軽井沢町と接しています。古くは東山道、近世には中山道の宿場、関所がおかれるなど交通の要衝であり、現在も市内に新幹線駅1駅、高速道路IC2ヵ所と立地条件に恵まれ、交通・輸送の要所として栄えています。現在安中市では、磯部温泉や旧碓氷峠など恵まれた環境を活かした観光事業の発展、交通の便を利点とした商・工業の充実などのために、様々な施策が進められています。「豊かな自然と歴史に包まれて ひとが輝く安らぎのまち」をテーマによりよいまちづくりを目指しています。



### 2 安中市消防団の概要

平成の大合併により平成18年3月18日旧

安中市消防団 第13分団	
本部	安中市消防団本部
支所	安中市消防団支所
地区	安中市消防団地区
<p><b>新年賀詞</b></p> <p>本年は、東日本大震災の被災地支援や、熊本地震の被災地支援など、大変な年でしたが、皆様のご協力により、無事迎えました。今年も、皆様のご協力により、安中市の発展と安全のために、努めます。よろしくお願い申し上げます。</p>	
<p><b>どんど焼き開始 9:00</b></p> <p>安中市消防団本部</p> <p>安中市消防団支所</p> <p>安中市消防団地区</p>	
<p><b>どんど焼き開始 13:00</b></p> <p>安中市消防団本部</p> <p>安中市消防団支所</p> <p>安中市消防団地区</p>	
<p><b>どんど焼き開始 10:00</b></p> <p>安中市消防団本部</p> <p>安中市消防団支所</p> <p>安中市消防団地区</p>	
<p><b>交通安全教室</b></p> <p>安中市消防団本部</p> <p>安中市消防団支所</p> <p>安中市消防団地区</p>	

安中市と旧松井田町が合併し、新安中市が誕生すると同時に安中市消防団設置条例を制定して、現在の安中市消防団が発足しました。1本部、14分団、35部の団員定数545人及び消防ポンプ自動車22台、小型ポンプ積載車18台で組織され、地域の事情に応じた体制を維持しています。

### 3 安中市消防団の活動

当市消防団の活動として、第13分団の活動を紹介します。



第13分団は分団長、副分団長を先頭に、30歳から54歳までの団員40名で構成されており、平均年齢は41歳です。機材は小型ポンプ車と消防ポンプ自動車各2台です。各車両に10名の団員が配置されています。

13分団の特徴としては、年度初めに分団独自で辞令交付式を実施し、その後に懇親会を計画し、団員相互の親睦を深めています。また、分団独自に「消防だより」という消防団の活動が、地域住民にわかるような新聞を年2回発行しています。この新聞は、回覧板で地域に回覧されており、さらに発行回数は、すでに58回となっています。このため、地域住民の消防団への理解度は高くなっています。また、月1回の放水訓練は欠かさず実施し、有事の際はだれでも消防車を出動させ放水できる様に指導しています。

また、13分団は、今年度のポンプ操法競技会の小型ポンプの部において、安中市大会及び高崎市等広域支部大会で優勝しています。その後の群馬県大会では惜しくも準優勝となり、全国大会への出場は逃しましたが、2名の選手が最優秀選手に選ばれました。この一連のポンプ操法競技会を通して、約1年間に渡り練習することにより、団員相互の絆が深まり、一致団結した消防活動ができるようになっていきます。さらに、『絆』をモチーフに『纏』をデザインしたオリジナルTシャツを作成し団員の一致団結を図っています。これからも団員相互及び地域住民との『絆』を大切に、地域に根付いた消防団活動を実施していきます。

#### 4 おわりに

群馬県には自然災害に対する「安全神話」



があります。確かに安中市では、死者・行方不明者が発生するような災害は60年以上にわたって発生していません。しかし、自然災害は数十年、数百年、時には3.11東日本大震災のように千年に一度というタイムスケールの中で発生します。自分が知っているこの地の歴史の中で甚大な災害がなかったことをもって、安中市は自然災害に対して安全なまちだと考えるのは、誤りといわざるを得ません。まさかの事態に備えて常日頃から各種訓練の充実、資機材の整備等により団員の士気高揚を高め、安中市民の安全安心に貢献します。





## 「市民の安心・安全を 目指して」



厚木市消防団 団長 井上 衛

### 1 厚木市の紹介

厚木市は、平成27年2月1日で市制60周年を迎え、面積は93.83km<sup>2</sup>、世帯数は96,349世帯、人口は225,126人（平成26年12月1日現在）となっています。

当市は、神奈川県の中央に位置し、市内には東名高速道路やさがみ縦貫道路をはじめ、多くの国道が通っており、文化、産業、交通の要衝で都心から46km、横浜から32kmという地理的な優位性を背景に工業団地や住宅団地などが建設され、日本を代表する世界的な企業やその研究施設などが多く存在しています。

また、「事故やけが」は偶然の結果ではなく、予防できるという理念の下、「市民



あつぎ鮎まつりパレード

協働による世界基準の安心安全なまちづくり」の取組みが評価され、平成22年11月に国内では3番目となる世界保健機関（WHO）セーフコミュニティ推進協働センターのセーフコミュニティ認証を取得しました。

### 2 厚木市消防団の紹介

厚木市消防団は、昭和30年2月1日に発足し、平成26年12月現在、8分団52部、団員558人（定数579人）で組織されています。平成17年から女性消防団員の任用も始まり、12の方が活動しています。消防車両は、積載車52台を配備し、各部が管理運用しています。



あつぎ消防団ふれあい広場【消火器体験コーナー】

### 3 厚木市消防団の活動

厚木市消防団の活動は、1月の消防出初め式に始まります。車両分列行進、小型ポンプ操法、消防演技、一斉放水を行い、多くの観客が集まります。4月には、新消防団員研修や団幹部の教養研修、6月には水防訓練、7月には消防団の最大の行事である消防操法大会、8月には50万人以上が来場する「あつぎ鮎まつり大花火大会」の警備、10月からは消防署との合同訓練、11月には消防団の重要性を市民にPRすることを目的とした「あつぎ消防団ふれあい広場」の開催、12月には歳末火災特別警戒等、様々な活動や訓練を行っています。

また、市内各地で開催される行事の警備や自主防災組織に対する訓練指導も実施するなど、地域住民と密接に繋がる活動も行っていきます。

なお、全国的に消防団員が減少する中で、本市も例外ではなく、団員数は減少傾向にあるため、団員確保についても積極的に取り組んでいるところです。



消防署と消防団の合同訓練

### 4 おわりに

現在、災害は複雑・多様化しており、これまで想像し得なかった災害も現実には発生しています。

そのような中、平成25年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行、平成26年2月には「消防団の装備の基準」「消防団員服制基準」も改正され、消防団の重要度は増すばかりとなっております。

厚木市消防団では、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域住民の安心・安全のため、団員一丸となって活動していきたいと考えております。



消防団の一斉放水



水防訓練



## 「わが町の誇りの消防団」



西之表市消防団 団長 福井 清信

### 1 西之表市の概要

西之表市は、九州本土最南端の佐多岬から南東方向約40kmの海上にあり、日本の有人離島の中では5番目に大きな島となる種子島の北部に位置しています。西之表市街地は古くから種子島の政治・文化の中心地として栄え、歴史的には戦国時代に漂着したポルトガル人から火縄銃を島主が譲り受け、国産化に成功した鉄砲伝来が有名です。また、去年は種子島宇宙センターから打ち上げられた「はやぶさ2」が話題となりました。

### 2 西之表市消防団の概要

西之表市消防団は消防団本部のもと13分



女性分団結団式

団で構成されており、団員数は309名（平成27年1月1日現在、条例定数320名）です。多様化する消防団活動に対応するため、平成24年4月1日に鹿児島県で初めて女性消防分団を結成しました。



震災対策訓練～家族と共に率先避難～

### 3 西之表市消防団員の活動

西之表市消防団員は、消火活動や火災予防の他、幅広い活動を行っています。特に、今後発生する可能性が指摘されている災害として南海トラフ巨大地震があり、国の想定では最大震度5強、最大津波高11mとされています。大震災に対応できる消防団づくりをここ数年重点的に取り

組んでおり、通信機器や救助用資機材の整備を進めています。昨年は「震災時における安全管理マニュアル」を策定し、市内全域にて3月に第1回消防団震災対策訓練を実施しました。今年も東日本大震災が発生した3月11日にあわせて第2回目の震災対策訓練を予定しています。今後も訓練を繰り返す行い、大震災に対する備えを消防団の日常とすることを目標として取り組んでいきます。

また、当市の特徴的な火災として「ハカマ焼き火災」があります。ハカマとはサトウキビの収穫後に残る枯葉のことで、ハカマ焼き火災とは南方特有の野焼き火災のことです。近年は農家の高齢化や少人数化の影響でハカマ焼き火災が多発し、死傷事故もでるなど問題となりました。そこで当市では収穫時期の火災警戒活動を重点的に実施しており、女性消防分団の奮闘もあり、ここ3年は火災発件数がほぼ半減してい



ハカマ焼きパトロール

ます。今後も気を抜かず活動を継続し、火災のさらなる減少に努めていきます。

#### 4 終わりに

種子島は台風の常襲地帯で、大雨などによる土砂災害の危険性が常にありますが、人命救助の経験は多くありません。これまでの注意喚起の広報や河川等の警戒に加えて、これからは避難誘導や救助活動も新たな課題となっています。いざという時に迅速に行動できるよう、資機材の整備に加えて日頃からの訓練が大切であると考えています。

このように、地域における消防団の役割と責任は今後ますます大きくなっていきます。住民の生命と財産を守り、そして自分や家族の安全と安心を守るため、私たち団員にはこれまで以上に心身の鍛練と知識の取得が必要となります。与えられた責務を十分に果たすため、団員一丸となって取り組んでまいります。



市民体育祭にて規律訓練披露



## シンフォニー（鳥取県） ～いきいき、わいわい 楽しく活動～

伯耆町消防団女性消防チームリーダー 団員  
樋口 春子

伯耆町は鳥取県の南西に位置し、中国地方を代表する「伯耆富士」といわれる秀峰大山や鳥取県の三大河川の一つである日野川など、雄大な自然景観に囲まれています。面積139.4km<sup>2</sup>、人口11,390人、消防団員148名中女性消防団員10名で活動しています。

伯耆町消防団女性消防チームは平成20年に結成され、その当時は6名で活動していましたが、少しずつ活動が理解され、現在では10名で活動しています。私たちの主な活動は、消防出初め式をはじめとし、新入団員規律訓練 鳥取県水防訓練、山林火災予防啓発、火災予防啓発パレード、防災の日に併せての住民の避難訓練、非常呼集訓練、常備食・常備薬の点検と啓発。住宅用火災警報器の設置と設置済みシール添付、年2回の広報紙の発行や各消防式典時の進行、各種研修会への参加と多岐に亘っています。

9月1日は、関東大震災にちなんで定められた「防災の日」、9月から10月にかけて防災訓練などの防災に関するイベントが全国的に開催され、防災知識の普及啓発が図られています。

本町でも毎年9月の最終日曜日を「伯耆



規律訓練

町防災の日」として全町民の参加のもと避難訓練が実施されますが、私たちは平成12年10月6日の鳥取県西部地震を体験しているだけに真剣そのものです。今年度は日野川の河川敷において、土嚢作り、土嚢の積み上げ、増水した川の中に取り残された人を想定してヘリコプターによる救助訓練・消火訓練などが大々的に実施されました。

訓練終了後、この機を捉えて常備食・常備薬の啓発をしたのですが、この事前学習会がとても楽しいものとなりました。それぞれの団員が常備食にはこれと思うものを持ち寄り、吟味しながらまとめあげていき、



水防訓練

検討の結果採用された品々は、啓発用の常備食として防災ケースに納め、残りの品は皆で楽しくおしゃべりしながら口の中へ運び、当日の役割分担をとり決めて解散しました。

本番は9割がた成功しましたが、今後はただ資料を配布して説明するのではなく、簡単な手話など取り入れて変化をつけてやってみたいと考え、あいさつ程度の初歩的なことから少しずつ練習しています。

次に力が入るのが広報紙の発行です。町内全家庭に配布され、多くの方々の目に留まり、しかも後々しっかりと残るものであるだけに、何をどう表現していけばよいか知恵を絞りあいます。時代の流れを読み、地域住民が求めているもの、私たちの思いを文字化していく作業はとても重みを感じます。

持ち寄った原稿を推敲しながらも、積んでは崩し、崩しては積んでと長時間にわたり検討がなされ、出来上がったときのあの達成感は最高です。

配布された広報紙を町民の皆さんが読んでくださり、折に触れて感想を述べてくださったときは、携わった者としてとっても嬉しく思います。

終わりに、住宅用火災警報器の設置について

平成20年頃には設置率45%位でしたが、現在は町が昨年全家庭に配布したので、100%の設置となりました。問題は、各家庭が本当にきちんと適切な所に設置してくださっているかどうかです。

最初のころは、炊飯器の真上に取り付けられ、ピーピーと鳴り出してびっくりされたご家庭もありました。以後は、買ったところの業者の方に取り付けをお願いし問題は解決しました。

このように色々実践していく中で沢山の問題や課題が派生してきますが、女性パワーをフルに発揮して、ひとつひとつ乗り越えていこうと思っています。



防災指導

# 都道府県における消防操法大会の結果

(公財)日本消防協会、各都道府県消防協会

(公財)日本消防協会では、消防団員の消防技術の練磨と士気高揚を目的に、全国で開催される消防操法大会に要する経費について、競輪事業収益による公益財団法人JKAの援助を受けて交付し

ています。

平成26年度の各都道府県消防操法大会の開催結果は、次のとおりです。

## ☆宮城県

7月27日(日) 宮城県消防学校  
成績

ポンプ車操法第1位	小型ポンプ操法第1位
石巻市消防団	石巻市消防団

総合優勝	石巻市消防団
総合準優勝	登米市消防団

7月27日(日)、消防関係者や応援団など約

2,000人が駆け付け声援を送るなか、第48回宮城県消防操法大会が宮城県消防学校にて開催されました。

今大会には、東日本大震災後初出場となった石巻市消防団をはじめ、県内7ブロックから9消防団が出場し、熱い戦いを繰り広げるとともに、消防団員の技術の向上や士気の高揚が図られた大会となりました。



宮城県



宮城県

## ☆山形県

7月13日(日)～9月14日(日) 7会場で開催

各支部優勝チーム

支部名	ポンプ車の部	小型ポンプの部
東南村山	山辺町消防団	上山市消防団
西村山	朝日町消防団	寒河江市消防団
北村山	東根市消防団	東根市消防団
最上	競技なし	戸沢村消防団
東南置賜	南陽市消防団	南陽市消防団
西置賜	白鷹町消防団	飯豊町消防団
庄内	鶴岡市消防団	鶴岡市消防団

消防団の消防操法技術の向上と士気高揚のた

め、山形県消防協会の主催により、協会の各支部ごとに会場を代え、ポンプ自動車の部33隊203名、



山形県



小型ポンプの部47隊240名の出場隊員により、山形県消防操法実施要領（全国消防操法実施要領と同じ）により、水だし消防操法を実施しました。



山形県



新潟県

### ☆神奈川県

7月30日（水）神奈川県消防学校訓練場

ポンプ車操法

【優勝】座間市消防団

小型ポンプ操法

【優勝】小田原市消防団

灼熱の太陽の下第49回神奈川県消防大会が気温



ポンプ車操法放水体勢

### ☆新潟県

7月27日（日）小千谷市白山運動公園第2駐車場  
「消防力の充実強化を目指して!」

県内消防の団結・士気高揚と消防技術の向上を図り、消防活動の進歩充実に寄与することを目的として「第65回新潟県消防大会・操法競技会」を小千谷市で開催しました。操法競技会では、ポンプ車操法及び小型ポンプ操法の2部門に計27チームが参加、あいにくの雨降りの中でしたが各チームとも日頃の訓練の成果を如何なく発揮されました。

長岡市消防団がポンプ車操法の部と小型ポンプ操法の部でダブル優勝を果たし、小型ポンプ操法の部で全国消防操法大会に出場します。

成績結果は次のとおり。

ポンプ車操法の部

【優勝】長岡市消防団 長岡川西方面隊

小型ポンプ操法の部

【優勝】長岡市消防団 長岡北部方面隊



新潟県

30度を超える猛暑のなか開催されました。夏の日差しの強い中、空には夏雲が浮かぶ無風状態の中、各隊員は地域防災の守りを誇りに地区大会を勝ち得た自覚と威厳を持ち、地域住民の声援を受け気迫は最高潮に、ポンプ車10隊、小型ポンプ車23隊200余名が出場、競技が開始され応援席からは「気を抜くな、前に行け、焦るな等」の声援を受け小



車両後方の隊員

型ポンプの部「小田原市消防団」、ポンプ車の部「座間市消防団」が最優秀の栄冠に輝き全国大会の出場権を得る。午後には若干の風も吹く白熱した熱戦を披露された。

大会は、消防団員の消防技術や士気の向上、防災力強化を目標に各地区から勝ち抜かれた精鋭、

一般市民応援者が見守る前で訓練を重ねた機敏な動作、鍛えられた演技を披露し、日頃の訓練成果を発揮され大きな拍手を浴び、消防団の存在を遺憾なく県民に示し全国大会に向け新たな発進を開始した。

## ☆埼玉県

### 8月23日（土）埼玉県消防学校

平成26年8月23日（土）埼玉県消防学校において、第28回埼玉県消防操法大会が埼玉県消防協会（坂田会長）と埼玉県（上田知事）の共催で開催されました。大会は、県内4ブロックから選出された17隊（ポンプ車の部14隊、小型ポンプの部3隊）にて競われました。

当日は、出場する消防団員のご家族、それぞれ

の地域の皆さんや、所属消防団員などたくさんの応援団が駆けつけ見守るなか日頃の訓練の成果を遺憾なく発揮していました。

成績結果については、次のとおりです。

#### ポンプ車の部

【優勝】川島町消防団

#### 小型ポンプの部

【優勝】飯能消防団



埼玉県



埼玉県

## ☆群馬県

### 8月23日（土）群馬県消防学校

#### ポンプ車の部

【優勝】昭和村消防団第1分団

【準優勝】太田市消防団第12分団

#### 小型ポンプの部

【優勝】昭和村消防団第3分団

【準優勝】安中市消防団第13分団

群馬県と群馬県消防協会との共催により隔年実施している消防操法大会も第22回目を迎え、ポン

プ車の部14チーム、小型ポンプの部8チームの精鋭が県内各地区代表として出場し、熱い戦いを繰り広げました。

選手は、応援団や関係者など約2,000人が見守る中、家族や地域の人の声援を受け、日頃の訓練の成果を存分に発揮しました。

また、競技終了後、審査結果の発表までの間高崎市消防団ラッパ隊の皆様による模範演技及び消防学校初任科生による部隊訓練を披露していただきました。



群馬県



群馬県

## ☆千葉県

7月26日(土) 千葉県消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】浦安市消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】八街市消防団

第50回千葉県消防操法大会は、真夏の暑い日差しの中、森田千葉県知事をはじめ県内の消防関係者や応援の家族等を含め約2,000名が参加して盛



千葉県

大に開催されました。

県内の各支部(10支部)から厳しい予選を勝ち抜いてきた、ポンプ車操法の部12チーム、小型ポンプ操法の部12チームが出場して日頃の訓練の成果を競い合い、消防操法技術の向上と士気高揚を図りました。

会場には各出場チームのテントが立ち並び、必勝祈願の幟旗が翻って、それぞれのチームに対し、盛大な歓声が上がリ、応援も盛り上がっていました。



千葉県

## ☆栃木県

7月26日(土) 栃木県消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】那須塩原市黒磯消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】益子町消防団

第41回栃木県消防操法大会は、真夏の炎天下の中、選手や家族、消防団員、一般見学者約1,100名の参加を得て、盛大に開催されました。

各支部の予選を勝ち抜いたポンプ車操法の部9チーム、小型ポンプ操法の部7チームの総勢89名の精鋭は、地域の代表としての誇りを胸に、日頃



栃木県

の厳しい訓練の成果を十二分に発揮して、レベルの高い操法技術を披露しました。なかには、操法終了後それまでの緊張から一気に解放され、隊員同士が抱き合って喜び合う姿も見られました。

応援席には出場選手を激励する幟旗が、あたかも場所中の大相撲の会場のごとく立ち並び、家族や団員の大声援ともどもに、大会は白熱したものになりました。

2連覇を成し遂げ今回全国大会に出場する那須塩原市黒磯消防団には、満場の拍手と激励の言葉が送られ、操法大会は熱気の中に無事終了しました。



栃木県

## ☆長野県

7月27日(日) 大町市 大町市運動公園 多目的広場、野球場

ポンプ車操法の部

【優勝】富士見町消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】上田市消防団  
消防ラップ吹奏大会

【優勝】辰野町消防団

長野県と公益財団法人長野県消防協会の共催に

よる「第56回長野県消防ポンプ操法大会」及び「第23回長野県消防ラッパ吹奏大会」を開催しました。競技には県下13地区から選抜された、ポンプ車操法の部12チーム、小型ポンプ操法の部13チーム及びラッパ吹奏13チーム、エキジビションとして、女性による小型ポンプ操法1チームが出場し、大会関係者、観客と合わせ約3,000人が参加しました。

また、消防団ラッパ隊との交流を行い、消防ラッ

パ吹奏技術の更なる向上、消防団のイメージアップなどを目的とした「消防団ラッパ隊広域交流会」を県ポンプ操法・ラッパ吹奏大会に併せて開催しました。

大勢の消防団員や一般来場者が見守る中、新潟県佐渡市消防団、山梨県山梨市消防団、岐阜県中津川市消防協会及び南北佐久消防協会合同の各ラッパ隊は、各地域ならではの曲目を次々と披露し、観客から大きな拍手が送られました。



長野県



長野県

#### ☆福井県

7月26日(土) 福井県消防学校

ポンプ車操法の部

【優勝】 鯖江・丹生消防組合越前消防団  
宮崎地区 第1分団

小型ポンプ操法の部

【優勝】 大野市消防団 第7分団  
毎年、福井県と当協会の共催で開催しており、

63回目の大会となりました。

厳しい暑さのなか気迫あふれる操法が続き、白熱した大会となりました。

9 地方消防協会から選出された、ポンプ車の部9チームおよび小型ポンプの部7チームの選手達は、地元の応援者や消防関係者の声援を受け、日頃の訓練の成果を力一杯発揮し、おおいに盛り上がりました。



福井県



福井県

## ☆石川県

7月19日(土) 石川県消防学校  
ポンプ車操法の部

【優勝】能登町消防団三波分団

【準優勝】内灘町消防団第二分団、

小松市消防団第七苗代分団

各地区の連合訓練大会で選ばれた精鋭18分団により、第62回石川県大会が開催されました。

開会式では、消防団員を雇用している県内の消防団員活動支援協力事業所のうち9事業所に石川県知事から感謝状が手渡されました。

選手宣誓後、競技開始となりましたが、纏やのぼり旗などが掲げられた各応援席前では、関係市町長等から選手を激励する光景が見受けられました。厳しい訓練で培った成果を存分に発揮しようと、緊張感に満ちた全力投球の競技が繰り広げられました。

競技終了後、第二十四回全国消防操法大会に出

場する能登町消防団三波分団による小型ポンプの模範操法が行われ、全国大会での活躍が期待される内容でありました。



石川県

## ☆富山県

7月26日(土) 富山県広域消防防災センター  
ポンプ車操法の部

【優勝】砺波市消防団 庄下分団

【次勝】高岡市消防団 古府分団

【参勝】小矢部市消防団 埴生分団

小型ポンプの部

【優勝】高岡市消防団 戸出分団

【次勝】富山市消防団 細入南分団

【参勝】南砺市消防団 福野北部分団

第65回富山県下消防団消防操法大会は、富山県

広域消防防災センターにおいて富山県と富山県消防協会の共催で開催され、各支部から予選を勝ち抜いたポンプ車操法の部21チーム、小型ポンプ操法の部13チームの参加のもと、盛大に開催されました。

連日の厳しい暑さの中で積んできた訓練の成果を遺憾なく発揮すべく、総勢191名の精鋭が真剣に競い合う姿に、来場者から大きな声援が送られ、消防団の県民に対するPRに大いに貢献する熱気あふれる大会となりました。



富山県



富山県

## ☆愛知県

8月9日(土) 小牧市総合運動場  
ポンプ車操法の部

【優勝】知多市消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】豊田市消防団

愛知県では、消防団員の消防技術の向上と消防団員の士気の高揚を図り、日頃の訓練の成果を発揮するため、昭和31年度からポンプ車操法及び小

型ポンプ操法の2種目で、消防操法大会を開催しており、本大会で第59回を迎えました。

大会当日は、台風11号の接近により、四六時中雨で、グラウンドも劣悪な状況でありましたが、この大会のために長きにわたり厳しい訓練を耐え抜いてきた消防団員にとっての披露の場として、3,000人以上が応援に駆け付け、盛大に開催されました。

各チームともに、常日頃から鍛え抜かれた消防

団員の体力、技術力、精神力で、普段以上の力が発揮することができ、地域住民の高い期待と熱い声援を受け、終日大雨が続く中、警報が発令され

ず、最後まで実施することができ、熱気あふれる大会となりました。



愛知県



愛知県

### ☆岐阜県

8月3日(日) 大野郡白川村  
白川村防災グラウンド

小型ポンプの部

【優勝】 海津市消防団

今回で63回目となる「消防感謝祭」岐阜県消防操法大会は、世界遺産白川郷合掌造り集落のある岐阜県大野郡白川村にて実施し、県内の27消防団が日頃の訓練の成果を発揮しました。

消防団員と、消防団員を支える家族の方への日頃の感謝の思いを込めて「消防感謝祭」と銘打って開催している大会ですが、岐阜県では消防団員を対象としたインセンティブ制度として「ありが

とね消防団水防団応援事業所制度」を8月1日からスタートし、新しい形で消防団員の応援を開始しています。会場では制度のPRを行い、消防団の応援ムードを盛り上げました。

また、バザーや消防音楽隊の演奏や、地元伝統芸能の太鼓披露など来場者の方楽しんでもらう催しのほか、地震体験コーナーや民間企業の防災対応のPRなど、来場者の防災意識の向上も図りました。

優勝した海津市消防団は第24回全国消防操法大会への出場が決まり、岐阜県代表としての活躍が期待されます。



岐阜県



岐阜県

### ☆京都府

8月3日(日) 京都府立丹波自然運動公園

ポンプ車操法の部

【優勝】 宮津市消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】 精華町消防団

第23回京都府消防操法大会が、来賓、消防団員等大会関係者、一般見学者あわせて1,300人を超える参加のもと盛大に開催されました。

ポンプ車操法の部は9消防団、小型ポンプ操法

の部は22消防団が出場し、各市町村の厳しい予選を勝ち抜いた代表団員が、日頃の厳しい訓練の成果を力一杯発揮し、操法技術を競い合う姿に、応援席から大きな声援が送られ、熱気あふれる大会となりました。

なお、優秀消防団の表彰に加え、操法の役割ごとに優秀な団員を個人表彰し、その栄誉を讃え、表彰式は、感動的で、より盛り上がりを見せた中、大会を終えました。



京都府



京都府

### ☆大阪府

9月7日(日)大阪府立消防学校

【総合優勝】三島地区支部

ポンプ車操法の部

【優勝】吹田市消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】河南町消防団

大阪府と大阪府消防協会との共催により毎年実施している大阪府消防操法訓練大会も第58回を迎えました。

当日は、晴天に恵まれ、府内7地区から選ばさ

れた2部門それぞれ7団、計14の出場団は、日頃の厳しい訓練の成果を発揮して熱気あふれる大会になりました。

「ポンプ車操法の部」で優勝した吹田市消防団は、第24回全国消防操法大会に大阪府代表として出場することが決定しました。

審査集計時間を利用して、大阪府内の女性消防団員有志が考案した応急救急の手順を示したオリジナル体操が披露され、大会参加者にむけ振り付け指導が行われました。今後の各方面での応急救急の普及活動に効果が期待されます。



大阪府



大阪府

### ☆兵庫県

8月3日(日)兵庫県立広域防災センター

小型ポンプの部

【優勝】福崎町消防団

ポンプ車の部

【優勝】南あわじ市消防団

今年で25回目を迎えた兵庫県消防操法大会は、台風12号の影響で、時折強い雨が降りしきる中、兵庫県立広域防災センターにて開催されました。雨にも関わらず、早朝から多くの関係者や見学者が声援を送る中、県下各9地区の代表チーム(小型ポンプの部 10隊、ポンプ車の部 8隊)が日ごろの訓練成果を存分に発揮し、熱気溢れる大会となりました。



兵庫県



兵庫県

☆奈良県

8月21日(木) 天理市三島町  
天理教北大路乗降場

ポンプ車の部

【優勝】葛城市消防団

小型ポンプの部

【優勝】広陵町消防団

奈良県と(公財)奈良県消防協会の共催による第25回奈良県消防操法大会が多くの来賓をはじめ、県内の消防関係者や応援の家族等約1,600名が参加して、天理市三島町「天理教北大路乗降場」において盛大に開催されました。

当日は、猛暑の中県下20支部からポンプ車の部に8チーム、小型ポンプの部に12チーム148名の選手が参加し、地元応援団などの大声援の中、出場隊員は支部代表として厳しい練習を重ねてきた成果を発揮し、規律、技、早さを競い合う白熱した操法が繰り広げられました。

熱戦の結果、小型ポンプの部では広陵町消防団が優勝し、第24回全国消防操法大会への出場権を獲得しました。

また、ポンプ車操法の部で優勝した葛城市消防団は、前回に引き続き連覇を成し遂げました。

本大会において、日頃の訓練成果を十分に発揮し、消防団員の消防操法技術の向上と士気の高揚に大きな成果をあげ、盛会の内に終了しました。



奈良県



奈良県

☆滋賀県

8月3日(日) 滋賀県消防学校屋外訓練場

ポンプ車の部

【優勝】甲賀市消防団B

小型ポンプの部

【優勝】甲賀市消防団

平成26年度第49回滋賀県消防操法訓練大会は、ポンプ車操法の部に12隊、小型ポンプ操法の部に17隊が出場しました。

大会は、消防技術の向上と士気の高揚を図り、

消防活動の充実強化に寄与することを目的に、滋賀県と(公財)滋賀県消防協会が主催、大会当日は、台風12号の影響をうけ、今にも雨が降りそうな曇り空の下ではありましたが、応援の家族や消防関係者ら約2,100名が詰めかけ、熱い声援のもと熱戦が繰り広げられました。

訓練は、各支部から選出された消防団が、各応援団の熱い声援をバックに、日ごろ鍛えた消防操法訓練の成果を競い合い、その結果に一喜一憂、会場は終日熱気に包まれました。



滋賀県



滋賀県



## ☆和歌山県

7月27日(日) 田辺市立大塔中学校

ポンプ車操法の部

【優勝】有田市消防団初島分団

小型ポンプ操法の部

【優勝】岩出市消防団

和歌山県、(公財)和歌山県消防協会の共催により、隔年に開催している和歌山県消防ポンプ操法大会は、今回で25回目を迎えました。



和歌山県

ポンプ車操法の部に12チーム、小型ポンプ操法の部に14チームの合計26チームが参加し盛大に開催されました。

家族や地域の方々の応援、関係者約1,500人の声援を受け熱戦が繰り広げられました。

日頃の訓練成果を遺憾なく発揮し、消防団員の士気の高揚と消防技術の向上に大きな成果を上げ、本大会の目的が十分に達成できました。



和歌山県

## ☆鳥取県

7月6日(日) 米子市、

鳥取県消防学校 屋外訓練場

ポンプ車操法

【優勝】江府町消防団(第1分団)

小型ポンプ操法

【優勝】米子市消防団(福生東分団)

第60回鳥取県消防ポンプ操法大会は、ポンプ車操法の部12隊、小型ポンプ操法の部9隊の出場で日頃の訓練成果を競い合い、熱のこもった大会となりましたが、ポンプ操法の部で優勝した江府町

消防団(第1分団)が4度目の全国大会出場権を手に入れました。

この大会では、一般住民にも来場してもらえるよう事前にチラシを配布し、起震車による震度体験や屈折はしご車の搭乗体験、消太パネルによる写真撮影コーナーを設置したり、東日本大震災の写真パネルや県内消防団の活動写真パネル等の展示も行い、消防グッズ販売店にも出店していただきました。

はしご車の前には搭乗希望の子供達の列ができましたが、一般住民の方にも操法を見てもらい、消防団のPRになりました。



鳥取県



鳥取県

## ☆島根県

8月3日(日) 錦浜ふれあい広場(松江市)

ポンプ車操法の部

【優勝】松江市消防団玉湯方面団

小型ポンプ操法の部

【優勝】浜田市消防団浜田消防隊

第58回島根県消防操法大会には、ポンプ車の部に13隊、小型ポンプの部に18隊が出場し、約1,600名の観衆が見守る中、日頃の訓練の成果を十二分

に発揮し、規律、技、速さを競い合いました。大会は、ポンプ車操法の部で松江市消防団玉湯方面団が、小型ポンプ操法の部で浜田市消防団浜田消防隊が優勝しました。

また、昼休みには、第24回全国消防操法大会に県代表として出場する奥出雲町消防団の操法披露と島根県消防学校初任総合教育第54期学生による訓練披露を行いました。



島根県



島根県

☆徳島県

7月13日(日) 徳島県消防学校 グラウンド  
ポンプ車操法の部

【優勝】板野町消防団 第3分団

小型ポンプ操法の部

【優勝】阿南市消防団 加茂谷分団第6班

第29回徳島県消防操法競技大会は、徳島県消防

学校グラウンドにおいて2回目の開催となりました。

ポンプ車操法の部に14隊、小型ポンプ操法の部に16隊が出場し、台風一過の曇り空ではありましたが、仲間の団員や家族など約1,200人の熱い声援を受けながら、長く厳しい訓練の成果を遺憾なく発揮した白熱の競技が繰り広げられました。



徳島県



徳島県

☆福岡県

9月7日(日) 福岡県消防学校  
自動車ポンプ

【優勝】小郡市消防団

前日までの雨模様とは一変し、初秋の乾いた風が気持ち良く吹き抜ける大会の朝を迎えました。北九州市消防音楽隊と女性団員のカラーガード隊に先導されて、大会は勇ましく、かつ華々しく幕を開けました。

福岡の夏は、日照時間が平年の4割程度に落ち込んで大会前の事前練習も、雷雨によって一時的

断されるなど雨に泣かされましたが、「終わりよければ全て良し。」のとおり、大会は滑らかな司会にも乗って順調に消化できました。

今大会は、2年前の7月に県南部を襲った未曾有の集中豪雨によってやむなく出場を断念した3消防団も出揃って、出場団は39団に達しました。それだけに各団とも大会出場の気迫はすざましく、特別来賓としてお迎えした日消の秋本会長を始め県知事も選手の競技には、大満足していただけたことでしょう。



福岡県



「キタキューティーズ」の演技

☆大分県

8月24日(日) 大分県消防学校  
ポンプ車操法の部

【優勝】九重町消防団

小型ポンプ操法の部

【優勝】竹田市消防団

大分県と一般財団法人大分県消防協会共催の第28回大分県消防操法大会は、各地区の予選を勝ち

抜いたポンプ車操法の部7チーム、小型ポンプ操法の部16チームが参加し、盛大に行われました。

各チームともに仲間の団員や家族、消防関係者等約千人が見守る中、市町の名譽をかけ連日の厳しい訓練の成果を競い合いました。競技開始早々からあいにくの雨となりコンディションが悪い中、熱戦が展開され、ポンプ車操法では九重町消防団が2期連続優勝。また、小型ポンプ操法では竹田市消防団が優勝し、11月に行われる全国大会への切符を手に入れました。



大分県

### ★宮崎県

8月23日(土)宮崎県消防学校において、公益財団法人宮崎県消防協会と宮崎県との共催による第34回宮崎県消防操法大会が、盛大に開催されました。

当日は晴天に恵まれ、ポンプ自動車操法12隊、小型ポンプ操法9隊、小型ポンプ積載車操法9隊の合計30隊が出場して、熱戦を繰り広げ、ポンプ自動車操法の部では高千穂町消防団が優勝し、全

国大会の切符を手に入れました。

競技終了後は、宮崎市消防団ラッパ隊によるアトラクションもあり、盛会のうちに終了致しました。

各種目優勝チーム

ポンプ車操法	小型ポンプ操法	小型積載車操法
高千穂町消防団 機動分団第1部	日之影町消防団 第3分団第13部	小林市消防団 第7分団第5部



宮崎県



宮崎県

### ★鹿児島県

8月29日(金)鹿児島県消防学校

小型ポンプの部

【優勝】曾於市消防団 大隅方面隊 南分団  
ポンプ車の部

【優勝】鹿屋市消防団 市成分団

第30回鹿児島県消防操法大会が、平成26年8月29日(金)鹿児島県消防学校で開催されました。

当日は、朝から断続的に雨が降る悪天候ではありましたが、県内11支部から激しい予選を勝ち抜いてきた、22消防団が出場して日頃の訓練の成果

を競い合い、消防操法技術の向上と士気意識を園りました。

結果は、小型ポンプの部で曾於市消防団大隅方面隊南分団、ポンプ車の部で鹿屋市消防団市成分団が栄えある優勝となり、会場から大きな拍手と声援が送られました。

今年は、広島の上土砂災害や、長野、岐阜両県にまたがる御嶽山噴火での火山災害など、自然災害が多発する中、消防操法大会を通じて、地域防災の要である消防団の存在を県民に広く知っていただき、理解を深めてもらうことができました。



鹿児島県



鹿児島県

# 平成26年版消防白書の概要

消防庁 総務課

平成26年版消防白書が、平成26年12月19日に公表されました。ここでは、その概要について紹介します。また、白書の全文については、消防庁ホームページ（<http://www.fdma.go.jp/concern/publication>）でご覧になれます。

## 今後発生が予測される大規模災害への対応と消防防災体制の強化 ～東日本大震災の教訓を生かす～

### 緊急消防援助隊の機能強化（特集1）

- 東日本大震災では、発災日から88日間にわたり、延べ約3万1,000隊、約11万人の緊急消防援助隊が消防・救助活動に尽力し、5,064名の人命を救助
- 切迫する南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模災害への対応を強化するため、車両・資機材の整備や訓練を通じ、運用を強化
- 「緊急消防援助隊の編成及び施設の整備等に係る基本的事項に関する計画」を平成26年度から平成30年度末までの第3期計画として改正し、緊急消防援助隊の機能強化を推進



緊急消防援助隊の救助活動（東日本大震災・宮城県気仙沼市）



被災地へ出動中の緊急消防援助隊（東日本大震災・岩手県大槌町）

### 南海トラフ地震、首都直下地震等に備えた大幅増隊

- ・東日本大震災を上回る被害が想定される南海トラフ地震等に備え、大規模かつ迅速な部隊投入のための体制整備が不可欠
- ・平成30年度末までの目標登録隊数をおおむね4,500隊規模からおおむね6,000隊規模に増強

- 災害時に迅速性が重要となる消火及び延焼防止活動、救助活動、救急搬送等の体制を充実強化するため、消火・救助・救急の主要3小隊を合計1,100隊増強
- 広域的な災害において、指揮支援隊の大幅な不足、都道府県大隊の複数地域に分かれての活動が想定されるため、指揮支援隊を20隊、都道府県大隊指揮隊を50隊増強
- 東日本大震災の経験を踏まえ、長期に及ぶ活動を想定した後方支援体制の確立が不可欠であることから、後方支援の充実を図るため、後方支援小隊を160隊増強

### 石油コンビナート災害に対応するためドラゴンハイパー・コマンドユニットの創設

- ・エネルギー・産業基盤で爆発・火災が発生した場合、周辺地域に危険を及ぼすだけでなく、我が国の国民生活に長期にわたって深刻な影響が発生
- ・エネルギー・産業基盤の災害を最小限に抑えるため、更なる消防力の強化が必要

- 特殊災害の対応に特化した、**エネルギー・産業基盤災害即応部隊（ドラゴンハイパー・コマンドユニット）**を新設し、**全国12地域に配備予定**



エネルギー・産業基盤災害対応型  
消防水利システム  
（※写真は現時点のイメージ）

### 機動力の強化

- ・東日本大震災においては、部隊の集合や、部隊全体での移動時の給油や休息等に時間を要したという事例が発生
- ・南海トラフ地震等で発生が懸念される大規模な津波災害や、近年多発している土砂災害等において、浸水や土砂が堆積した悪路や通信が途絶した環境下において活動することを想定

- 初動対応をより迅速・的確にするため、大規模災害発生後、被災地に緊急・先遣的に出動し、特に緊急度の高い消火・救助・救急活動を展開するとともに、後続部隊の活動に資する情報収集・提供を行うことを任務とする**統合機動部隊を新設**
- 浸水地域で救助活動を効果的に行うための**津波・大規模風水害対策車両（小型水陸両用バギー等の救助資機材を積載）**や、がれき除去や道路の啓開などを行うための**重機及び重機搬送車を配備**

津波・大規模風水害対策車両



小型水陸両用バギー

### 後方支援体制の充実

- ・南海トラフ地震等では、緊急消防援助隊は東日本大震災以上に厳しい環境下で長期にわたり活動することを想定
- ・南海トラフ地震のような被災地が極めて広範囲にわたる災害では、部隊が陸路を使用して出動することや、部隊が使用する車両の燃料を確保することが困難となり、活動に支障を生じるおそれ

- 大型エアートント、発電発電機、冷暖房機、寝具、トイレ、シャワー、情報通信機器等の資機材を積載し、100人規模の宿営が可能で、**被災地での長期にわたる消防応援活動を支える拠点機能を形成するための特殊車両（拠点機能形成車両）を配備**
- 消防防災施設整備費補助金の補助対象に救助活動等拠点施設を加え、**救助隊が自律的に救助活動を行える拠点施設の整備を促進**



拠点機能形成車両

大型エアートント



平成26年8月豪雨による広島市土砂災害での拠点機能形成車両の活用状況（平成26年8月22日・広島市）（松山市消防局提供）

### 通信支援体制の整備

- ・東日本大震災の被災地域では、大規模な公衆通信の輻輳・途絶が見られ、緊急消防援助隊の情報収集・伝達や部隊運用に大きな影響、また、防災相互波が十分に活用されず、関係機関間のコミュニケーションに支障
- ・大規模災害現場では、厳しい通信環境下で多様な関係機関が活動することから、多種の通信回線を状況に応じて使い分けて、関係各所に必要な情報を伝達するなど、災害に強い多重的な通信の確保と有効活用が必要

- 災害に強い通信機能を保有し、被災地での通信確保のための支援活動を行う通信支援小隊を新設し、全国に50隊配備予定
- ヘリサットシステム、緊急消防援助隊動態情報システム及び支援情報共有ツール、ヘリコプター動態管理システムの整備を推進

### 自衛隊、警察等との連携促進

- ・大規模災害の現場においてはマンパワーや資機材等の資源に限られていることから、自衛隊、警察、DMAT等の関係機関がそれぞれの特性について相互理解を深め、人命救助に向けて連携することが重要

- 全国を6ブロックに分け、毎年各ブロックにおいて、連携した部隊輸送、道路啓開、防災相互波を活用した情報共有、現地合同指揮所の設置・運用による活動調整等の具体的な課題についての合同訓練を実施
- 平成26年9月に発生した御嶽山噴火災害では、急峻な山道での体力の消耗や疲労による事故を防ぐため、自衛隊ヘリコプターの支援により救助隊員の輸送を実施



現地合同指揮所における関係機関間の活動調整  
(緊急消防援助隊地域ブロック合同訓練)

## 消防団等地域防災力の充実強化（特集2）

### 消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律の成立

- ・消防団は地域における消防防災体制の中核的存在として、地域住民の安心・安全の確保のために果たす役割はますます拡大
- ・消防団員数は、10年前の平成16年に比べ約5万人減少して約86万人となっており、消防団員の減少に歯止めをかけ、増加させることが必要

- 平成25年12月、消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、住民の安全に資するため、議員立法により「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が成立

#### [法律における主な規定]

- ・地域防災力の充実強化に関する計画の策定
- ・全ての市町村に置かれるようになり、将来にわたり地域防災力の中核として欠くことのできない代替性のない存在である消防団の強化
- ・国及び地方公共団体による消防団への加入の促進
- ・公務員の兼職の特例
- ・事業者・大学等の協力
- ・消防団員の処遇・装備・教育訓練の改善等の消防団の活動の充実強化
- ・地域における防災体制の強化

## 【法律制定を受けた消防庁における取組状況】

### (消防団充実強化対策本部の設置)

- ・ 庁内に「消防団充実強化対策本部」を設置し、消防団への加入促進、消防団員の処遇改善、消防団の装備・教育訓練の充実等について、地方公共団体への支援・働きかけを実施

### (消防団への加入促進)

- ・ 平成25年11月8日及び平成26年4月25日の2度にわたり、総務大臣から各地方公共団体の長あてに、消防団入団促進に関する書簡を送付
- ・ 消防団員を雇用する事業所の消防団活動への理解と協力を得ることが不可欠であるため、「消防団協力事業所表示制度」の普及及び地方公共団体による事業所への支援策の導入を促進
- ・ 文部科学省と連携し、大学等に対し、大学生の加入促進、大学による適切な修学上の配慮等について働きかけを依頼
- ・ 法の定めに基づき、国家公務員の消防団員との兼職等に係る職務専念義務の免除に関する政令を制定するとともに、地方公共団体に対し、地方公務員についても、国家公務員制度における取扱いを踏まえた適切な対応を依頼
- ・ 消防団員数が相当数増加した団体等19の消防団に対し、平成26年6月24日に総務大臣から感謝状を授与

### (消防団員の処遇の改善)

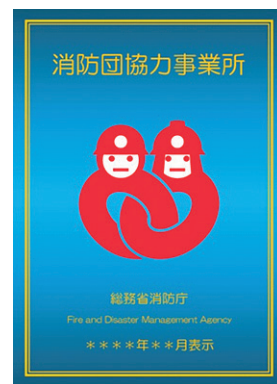
- ・ 消防団員等公務災害補償等責任共済等に関する法律施行令を改正し、平成26年4月1日から、消防団員に支給される退職報償金を全階級一律5万円（最低支給額20万円）引上げ
- ・ 消防団員の年額報酬及び出勤手当について、活動に応じた適切な支給を地方公共団体に働きかけるとともに、特に支給額の低い市町村に対し引上げを要請

### (装備の充実強化)

- ・ 平成26年2月7日に「消防団の装備の基準」を改正し、トランシーバー等の双方向通信機器やライフジャケット等の安全装備品等を盛り込むとともに、地方交付税措置を大幅に拡充
- ・ 平成25年度補正予算及び平成26年度当初予算により、消防団及び消防学校に対し、救助資機材を搭載した消防ポンプ車両等を整備

### (教育・訓練の充実・標準化)

- ・ 平成26年3月28日に「消防学校の教育訓練の基準」を改正し、消防団員に対する幹部教育のうち、中級幹部科を指揮幹部科として拡充強化



消防庁が交付する表示証  
(ゴールドマーク)

### 充実強化に向けた今後の取組

- ・ 第27次消防審議会では、諮問を受けて、平成26年7月3日に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化の在り方に関する中間答申」を提出
- ・ 「国及び各地方公共団体その他の関係主体は、消防団への加入の促進、消防団員の処遇の改善、消防団の装備の改善及び消防団員の教育訓練の改善により消防団の強化を図るとともに、地域における防災体制の強化を図ることにより、消防団を中核とした地域防災力の充実強化に総合的・計画的に取り組むべき」との答申

- 消防庁においては、中間答申を踏まえて、今後の消防団を中核とした地域防災力充実強化の施策に着実に反映させていく方針
- 平成26年8月29日には、日本消防協会の主催により、民間事業者をはじめ、勤めている方、若者や女性など、国民各界各層の幅広い参加を得て、「消防団を中核とした地域防災力充実強化大会」を開催し、今後、各地域に展開されるよう施策を実施

【その他引き続き実施すべき施策】

- ・ 女性の入団推奨
- ・ 全国女性消防団員活性化大会の開催
- ・ 全国消防団員意見発表会・消防団等地域活動表彰の実施
- ・ 消防団員入団促進キャンペーンの全国展開
- ・ 消防団活動のPR
- ・ 機能別団員及び機能別分団など消防団組織・制度の多様化方策の導入
- ・ 消防団員確保の支援体制の構築
- ・ 全国消防操法大会の開催



救命講習を行う女性消防団員



消防団員募集ポスター

最近の大規模自然災害・火災爆発事故への対応及びこれを踏まえた消防防災体制の整備（特集3）

伊豆大島の土砂災害を踏まえた危機管理体制及び訓練の充実

・平成25年10月11日に発生した台風第26号により、死者40名、行方不明者3名という甚大な被害が発生。特に東京都大島町においては、猛烈な雨が降り、大規模な土砂災害が発生

- 地元消防本部・消防団、都内応援の東京消防庁、緊急消防援助隊が一体となって、多数の倒壊家屋や土砂からの救助活動を展開
- 緊急消防援助隊については、東京都知事からの応援要請を受けて1都4県の知事（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県、静岡県）に対して長官が出動を求め、16日間にわたって延べ479隊、2,055人が活動
- 被災地が離島であったことから、緊急消防援助隊等の出動にあたり、航空自衛隊の輸送機の支援により、迅速に隊員、車両及び資機材を投入するなど、関係機関と連携して活動



緊急消防援助隊による夜間活動  
(平成25年10月17日・大島町) (横浜市消防局提供)



C-1輸送機から降りる消防車両  
(平成25年10月19日・大島町)



- ・市町村の危機対応では、危機発生時に陣頭指揮をとることが求められる市町村長のリーダーシップが重要
- ・危機対応の経験がない職員は、研修を繰り返すことによって、危機意識や対応能力を高めていくことが重要
- ・危機が発生した時に適切な対応ができるには、実践的な訓練を定期的に行うことが重要

- 平成26年6月4日に、内閣府とともに、全国約190人の市長参加の下に「全国防災・危機管理トップセミナー」を開催し、併せて、都道府県においても、市町村長を対象とした「都道府県防災・危機管理トップセミナー」を順次開催
- 都道府県及び市町村の危機管理担当職員等が防災・危機管理の基礎知識等を速やかに習得できるよう、平成26年度から、全国各地において、「防災・危機管理研修会」を開催
- 実践的な防災訓練の普及に向け、地方公共団体の行う防災訓練について、モデルとなる事例を地方公共団体等に対して情報提供を行い、防災訓練全体の底上げを図ることを目的とし、平成26年3月に「実践的な防災訓練の普及に向けた事例調査報告書」を作成

#### 広島市の土砂災害を踏まえた災害リスク情報の的確な提供の推進

- ・平成26年8月19日夜から翌20日明け方にかけて、広島市を中心に猛烈な雨となり、広島市内の複数箇所です砂災害がおきて、死者74名という甚大な被害が発生

- 地元消防本部・消防団、広島県内の消防本部からの応援隊、緊急消防援助隊が一体となって、多数の倒壊家屋や土砂からの救助活動を展開
- 緊急消防援助隊については、広島県知事からの応援要請を受けて1府6県の知事（大阪府、鳥取県、島根県、岡山県、山口県、愛媛県、高知県）に対して長官が出動を求め、17日間にわたって延べ694隊、2,634人が活動
- 災害現場近くに設置された現地合同指揮所に関係機関が集まり、災害現場の情報を共有し、活動エリアの区割りなど活動方針を調整・決定するなど、関係機関と連携して活動



小型水陸両用バギーによる活動（平成26年8月29日・広島市）  
（岡山市消防局提供）



重機による活動（平成26年8月27日・広島市）  
（岡山市消防局提供）

- ・平成11年6月に広島市において発生した土砂災害を教訓に、土砂災害防止法が制定されたにもかかわらず、再びその近隣地域において、前回は大きく上回る甚大な被害が発生
- ・今回の災害では、夜間における避難勧告のあり方が課題となったことから、政府非常災害対策本部において「深夜を含めた災害リスク情報の的確な提供」等に取り組むことについて決定

- 平成26年9月に、「基本的に夜間であっても、躊躇することなく避難勧告等は発令する」ことなど、ガイドラインにおける主な記載内容を改めて周知するとともに、判断基準がガイドラインに照らして不足、不備等ある場合は必要な見直しを行うよう地方公共団体に依頼
- 夜間や早朝を問わず住民に即時、確実に情報を伝達するには、複数の情報伝達手段を組み合わせる必要があることから、緊急速報メールの整備促進、防災行政無線の戸別受信機の配備、Lアラート（災害情報共有システム）の活用推進などを実施
- 突発的局地的豪雨による土砂災害時に、防災気象情報や避難勧告等の防災情報の伝達について、どういった情報をどのような範囲でどう伝達すべきか検討するため、平成26年10月に「突発的局地的豪雨による土砂災害時における防災情報の伝達のあり方に関する検討会」を発足

### 御嶽山噴火災害への対応

- ・平成26年9月27日に御嶽山で水蒸気爆発による噴火がおき、死者57名、行方不明者6名という甚大な被害が発生

- 地元消防本部・消防団、長野・岐阜両県内の消防本部からの応援隊、緊急消防援助隊が一体となって、御嶽山山頂付近などにおいて救助活動を展開
- 緊急消防援助隊については、長野県知事からの応援要請を受けて1都5県の知事（東京都、富山県、山梨県、岐阜県、静岡県、愛知県）に対して長官が出動を求め、21日間にわたって延べ1,049隊 4,332人が活動
- 標高3,000メートルという厳しい環境で、火山活動も継続している中での活動であり、さらに火山灰をかき分けながらの捜索であったため、活動中止・再開の基準の作成、火山ガス検知器や防毒マスクの携行等、隊員の安全管理や体調管理を徹底した上で活動を実施
- 自衛隊ヘリコプターによる山頂への隊員及び資機材の輸送、自衛隊や警察と活動エリアを区分けしての捜索等、関係機関と連携して活動



火山性ガス検知器



火山ガスを検知する救助隊  
(平成26年9月28日・御嶽山黒沢口登山道)  
(名古屋市消防局提供)



バスケット担架等を用いた搬送  
(平成26年9月28日・御嶽山王滝口登山道)  
(東京消防庁提供)

- ・火口周辺で多くの登山者が被災したことから、我が国の火山防災対策に関する様々な課題が整理
- ・今回の噴火を教訓に、こうした火山災害を二度と起こさないよう、「火山噴火に関して緊急的に行う主な被害防止対策」が取りまとめられ、緊急的に取組を実施。

- 政府全体における緊急の取組として、緊急調査の実施、常時観測47火山全てにおける火山防災協議会の設置、登山者や旅行者に対する適切な情報提供と安全対策、火山観測体制の強化等を実施

- 政府全体における中期的な取組として、**避難施設の整備、救助体制の強化**、火山観測体制の更なる強化と調査研究の推進を実施
- 政府全体における継続的な取組として、火山災害に対する防災教育の推進、火山防災訓練の推進を実施

#### 福岡市の有床診療所火災を踏まえた有床診療所・病院火災対策の推進

- ・平成25年10月11日、福岡県福岡市の有床診療所において、死者10名、負傷者5名という重大な人的被害を伴う火災が発生
- ・本火災においては、火災を発見した当直の職員が消防機関に通報していない、設置されていた消火器・屋内消火栓設備が使用されていないなど、初動対応等が不十分であったこと、防火戸が閉鎖せず、階段室等を経由して早期に煙が建物内に充満したことが、多数の死傷者を発生させた要因として指摘

- ICTを活用し、関係省庁間で情報を共有できる「**有床診療所防火対策自主チェックシステム**」(※)が、平成26年4月から運用を開始し、全国で利用が進んでいるが、**更なる利活用の促進を図る**ほか、「有床診療所等における火災時の対応方針」による実践的な訓練の実施を推進し、防火管理体制の向上を図るなど、ソフト面の対策を実施
  - ※有床診療所の防火対策は、消防、建築、医療分野にまたがり、関係省庁が連携してサポートすることができる。
  - また、ICT技術を活用して自主チェックしたデータを関係省庁が共有することにより、効果的な対策を講じることができる。
  - これらのことから、消防庁のサーバーを活用してシステムを開発。
- ハード面の対策として、「避難のために患者の介助が必要な有床診療所・病院」については、スプリンクラー設備の設置及び自動火災報知設備と火災通報装置の連動を義務づけることとし、**設置基準の強化を主な内容として消防法施行令を一部改正**(平成26年10月16日公布、平成28年4月1日施行)
- 医療部局、建築部局等の関係機関との情報の共有・連携を図るため、**防火関係規定の不備を把握した行政機関から他の関係部局への情報共有を適切に実施**し、その後の改善に的確に結びつけていくよう体制の構築を推進

#### 最近の爆発事故等を踏まえた石油コンビナート等における災害対策の推進

- ・東日本大震災後においても、石油コンビナート等における特定事業所では爆発火災等の重大事故が発生し、一部では多数の死傷者が出るなど深刻な事故も発生
- ・平成26年1月に発生した三菱マテリアル(株)四日市工場における爆発火災事故を契機として、石油コンビナート等の保安に関する規制を行う省庁が参加して連絡会議が設置され、重大事故の発生防止に向けて事業者及び業界団体が取り組むべき事項並びに関係機関が連携して取り組む事項等について平成26年5月に報告書を公表

- 厚生労働省及び経済産業省と連名で、**関係業界団体に対し報告書に基づく取組を要請**するとともに、各都道府県に対して石油コンビナート等における災害防止対策の推進に引き続き努めるよう通知
- 報告書を踏まえ、「石油コンビナート等災害防止3省連絡会議」を設置し、**事故情報や政策動向を共有**するとともに、**共同運営サイトを開設**し、事故情報等を発信
- 「石油コンビナートの防災アセスメント指針」に基づき**関係道府県が作成する石油コンビナート防災計画の見直しの促進**を行うとともに、緊急消防援助隊のエネルギー・産業基盤災害即応部隊の体制整備、**高度な消防ロボットの研究開発**、関係機関による合同訓練の実施を推進
- 自衛防災組織等において、**保有する消防車両の操作技能を高めていく**ことは、石油コンビナート等の保安の確保、被害拡大の防止の観点から、極めて重要であるため、「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」を実施



技能コンテストの様子

# 平成27年度 消防個人年金海外視察のご案内

## 決定版 ドイツ街道くらべ 8日間

(公財)日本消防協会では、消防個人年金事業の一環として、消防個人年金加入者等とその家族を中心に広く消防職団員の方を対象とした海外視察を企画しましたのご案内いたします。

第19回となる今回の海外視察は、ドイツの街道を巡ることとしました。

参加者の皆さまが気軽に安心してご参加いただけるように、次の点に配慮した内容となっております。

- (1) 日本消防協会の職員および添乗員が同行いたします。
- (2) ポイントをおさえながらも、ゆとりをもった視察行程となっております。
- (3) 全行程において、行き届いたお食事をご提供いたします。
- (4) 細部にまでおける良心的なサービスをご提供いたします。

1. 日時  
平成27年5月13日(水)から5月20日(水)まで

2. 視察先および日程  
ドイツ(6泊8日)

\*詳細は日程表をご参照ください。



3. 参加費用  
おひとり様 299,800円

(1) 航空運賃(エコノミークラス)・空港税・燃油サーチャージ・団体旅行傷害保険等

(2) 宿泊料・食事代等  
注) 宿泊は原則2人1部屋となります。一人部屋をご希望される場合は追加料金が必要となります。

4. 参加対象者  
消防個人年金加入者とその家族及び広く消防団職員等を対象とします。

5. 参加人数  
25名様程度  
注) 参加希望受付は、平成27年4月10日までとさせていただきますが、定員となり次第締め切らせていただきます。

6. 問い合わせ先  
下記連絡先まで電話またはFAXにてご連絡ください。  
旅行者より資料と申込書をお届けいたします。

### 【問い合わせ先】

(公財)日本消防協会 年金共済部  
TEL: 03-3503-3079  
FAX: 03-3503-1480



# 日 程 表

	月日(曜日)	都 市	現地時間	交通機関	行 程 内 容	食事
1	2015年 5月13日(水)	成 田 発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発 フランクフルト着	11:40 16:05 18:10 19:40	SK984 SK1635 専用車	空路、コペンハーゲン經由フランクフルトへ  空路、フランクフルトへ 到着後、ホテルへ ホテルに到着、その後夕食  [フランクフルト泊]	朝:× 昼:機  夕:○
2	5月14日(木)	フランクフルト  ハイデルベルク  フランクフルト	17:00	専用車	ローレライの岩を車内より視察 昼食はサワークラウト、ハム・ソーセージ盛合せ 古城街道を經由し、ハイデルベルクへ向う <u>ハイデルベルク城</u> 等視察 ロマンチック街道を經由し、ローテンブルクに向う ホテルに帰着 夕食はドイツ風パスタ  [フランクフルト泊]	朝:○ 昼:○  夕:○
3	5月15日(金)	フランクフルト発 アイゼナハ着  ワイマール着 イエナ着	午前 17:00	専用車	フランクフルト市内視察 ゲーテハウス、旧市庁舎、大聖堂等 その後、メルヘン街道、ゲーテ街道を經由しアイゼナハへ向う 昼食はドイツ風カツレツ 着後、パツハの家、ヴァルトブルク城等視察 ワイマールへ向う、その後ゲーテの家、シラーの家等視察 ホテルに到着 夕食は名物のチューリンガーソーセージ  [[イエナ泊]	朝:○ 昼:○  夕:○
4	5月16日(土)	イエナ発  マイセン着	午前 17:00	専用車	ライプティヒへ向う 着後、旧市庁舎、トーマス教会等散策 昼食はホワイトアスバラガス その後、マイセンへ向う 着後、磁器のメッカマイセン磁器工場、バーンホーフ通等視察 ホテルに到着 夕食はロールキャベツ  [マイセン泊]	朝:○ 昼:○  夕:○
5	5月17日(日)	マイセン発  ベルリン着	09:00 17:00	専用車	ポツダムへ向う 着後、サンサーシ宮殿を視察 昼食はカリールブルスト その後、ベルリンへ向う ホテルに到着 和食レストランにて夕食  [ベルリン泊]	朝:○ 昼:○  夕:○
6	5月18日(月)	ベルリン	09:00 午後 17:00	専用車	ベルリン消防局視察 昼食はアイスバイン(豚すね肉の塩漬け) 市内視察 ブランデンブルク門、ポツダム広場等 その後、ショッピング ホテルに帰着 中華料理のさよならディナー  [ベルリン泊]	朝:○ 昼:○  夕:○
7	5月19日(火)	ベルリン 発 コペンハーゲン着 コペンハーゲン発	08:00 10:35 11:35 15:45	専用車 SK1674 SK983	空港へ 空路、コペンハーゲン經由成田へ  空路、成田へ  [機中泊]	朝:○ 昼:× 夕:機
8	5月20日(水)	成 田 着	09:35		到着後、解散	朝:機

当日程は航空会社、現地の事情等で変更になる場合がありますので予めご了承のほどお願いします。  
SK:スカンジナビア航空 斜字は街道です。\_\_は入場します。

うちの

# 名物団員



京  
都  
府



京都市右京消防団西院第一分団 団員

黒田 珠暉

歴史都市・京都の北西部を管轄する京都市右京消防団から、ピカピカの女子高生団員、黒田珠暉（みき）さんを紹介します。

珠暉さんは御両親も消防団員で、幼い頃から詰所に連れられていたことから、消防団は馴染み深い存在でした。小・中学生時代、辛いことや悩みがあったときに、学校の先輩や地域の方々に支えてもらった経験から、周囲の方に恩返しをしたいという強い思いがあり、入団資格である18歳の誕生日を迎えた際に、消防団員となって地域に貢献していくことを決意しました。

将来は、歯科衛生士になるのが夢で、医療関係に興味があることから、「今後は、AEDの使用法など応急手当の普及に頑張りたい」と張り切っています。

鳥  
取  
県



伯耆町消防団 団員

伯耆町消防団 団員

大森 紀子

安田 紀恵

大森さんは手話が得意。鳥取県の手話言語条例制定前から勉強しておられました。大森さんの指導の下、消防団活動に手話を取り入れています。

安田さんは、いつも手作りの料理を持ってきてくれる団の良きお母さん。安田さんの料理はとても美味しく、このおもてなしで会議も楽しくできています。いつもありがとう。

福  
岡  
県



福岡県芦屋町消防団 団員

大庭 範久

芦屋町から、第2分団所属の大庭範久団員を紹介します。大庭団員の自慢は、ボディビルダーとして活躍するその美しい肉体です。自らジムも経営するスポーツマンであり、ボディビルの大会で4階級制覇も達成しています。

消防団員としても日々の訓練を欠かさず、火災現場の最前線で活躍する姿は、他の団員の模範となっています。



## 松原市消防団 第5分団 分団長

## 磯野 均

磯野均分団長は、地元三宅地区で自転車販売店を営みながら消防団活動に精を出し、地域の顔としても大活躍しておられます。

消防団活動としては、災害現場はもちろんのことながら、はしご乗り演技でのまとい頭やポンプ車操法の指揮者を務めるなど、その手腕は広く団員からも信頼されてお

ります。また宴会などの席では「消防団の唄」を歌うなど、宴会の席を盛り上げるなど、オンとオフをしっかりと使い分け松原市消防団には欠かせない磯野分団長であり、まさにムードメーカー！

これからも松原市の安心・安全のために大活躍を期待しています。



## 曾於市消防団 末吉方面隊諏訪分団 団員

## 森山 英昭

森山英昭さんは平成23年4月1日に入団し、消防団歴3年の団員で、曾於市消防団末吉方面隊諏訪分団に所属しています。

現在30歳で、消防団員として活躍する

一方、毎年、春の鹿児島県本土を舞台に開催される、県下一周市郡対抗駅伝競走大会のランナーとしても活躍しています。また、仕事柄、ゴミの分別を積極的に取り組み、その取り組みを海外にも広げるため、自ら現地へ赴き中心となって支援活動を行なっています。

今後も地域を守るため、また、地域の代表として、なお一層の活躍が期待されています。



## 厚木市消防団第6分団分団長 厚木市消防団女性消防団員

## 原田 正巳

## 中川 麻美

厚木市消防団が誇る親子の消防団員を紹介します。父親の正巳さんは、昭和59年の入団以来、30年以上消防団員として活躍しており、第6分団を率いる分団長として、今年で9年目となります。消防団員の父親の背中を見て育った麻美さんは、

平成17年に厚木市女性消防団が発足すると、迷わず入団を決め、火災予防広報などを中心に積極的に活動しています。現在は、副部長を務めており、市の広報誌で1面を飾るなど、女性消防団員内で欠かせない存在となっています。

お二人の益々のご活躍を応援しております。

# 共同で消防団PR活動を実施

埼玉県 行田市消防団

行田市消防団は、平成27年1月10日（土）行田市役所周辺を会場に実施された「平成27年行田市消防出初式」において、埼玉県並びに（公財）埼玉県消防協会と共同で消防団PRを行いました。

この取り組みは、県内の消防団員数が減少傾向にあり、大変に憂慮される状況にあることから、消防団の一層の活性化と消防団員確保を図ることを目的として行われたものです。

当日は天候に恵まれ、多くの来場者が消防団PRブースを訪れたなか、当市の女性消防団員が中心となり、消防団の認知度を調査するためのアンケートを実施しました。

また出初式のアトラクションでは、消防操法の披露、新入団員によるロープ基本結索訓練やベテラン団員による油圧救助機具取扱訓練の展示を行い、新時代の消防団活動をPRできました。

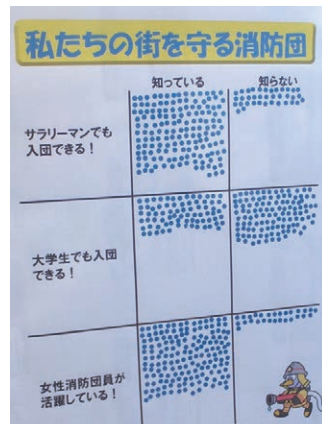
今後も地域に根ざす消防団として、地域住民とともに災害に強い安心・安全なまちづくりに取り組んでいきたいと思えます。



消防団PR



アンケート調査





# 消防団の広場

石川県

## 地域の「安全・安心」を目指して ～新たな決意で臨んだ出初式～

金沢市消防団連合会  
会長

澤飯 英樹



金沢市は石川県のほぼ中央に位置し、加賀藩前田家の城下町として栄え、加賀友禅や金箔、九谷焼などの伝統工芸や、能楽や加賀万歳などの伝統芸能が受け継がれてきました。

また、戦災や大きな災害を免れたため、古くからの美しいまちなみが現在でも多く残っており、金沢市の貴重な財産となっています。

金沢市消防団は3消防団49分団で構成され、藩政時代の加賀鳶を起源とした勇壮果敢な気風を今に受け継ぎ、郷土愛護の精神のもと、地域住民の生命・財産を守るため、日々、積極的な活動・訓練に励んでいます。

さて、平成27年1月11日（日）に市内中心部の金沢城公園で消防団員1,100名が参加し、新春恒例の出初式が開催されました。



式典では、デザインを一新した活動服をお披露目し、また、ご来賓の日本消防協会秋本敏文会長よりご祝辞を賜りました。

式典後は、約3,000人の観衆が集まる中、石川県指定無形民俗文化財である伝統の加賀鳶梯子登りが披露され、消防団員が高さ6mの梯子の上で妙技を繰り広げ、演技に合わせて金箔貼りのまといが華麗に演舞しました。

その後、49分団の消防ポンプ車による裸放水が行われ、30mほどの高さまで水柱が立ち上がり、出初式を締めくくりました。

今年3月には、北陸新幹線が開業します。首都圏をはじめ沿線から多くの人達が金沢へ訪れることを期待しています。これからは、地域住民はもとより、金沢を訪れる皆様の安全・安心のため、より一層強固な消防団の体制づくりに邁進しなければならないと、団員一同、決意を新たにしました。

# 消防団の広場

福岡県



## 「男女がともに活躍できる 消防団に向けて」

築上町消防団  
団長

片峯 直志



福岡県北東部に位置し、南北に広い築上町（ちくじょうまち）は、平成19年に旧椎田町と旧築城町の合併によって誕生し、人口は約19,600人で山や海などの自然溢れる町です。

町の北部には、学問の神様として親しまれている菅原道真公の漂着の場と伝えられる綱敷（つなしき）天満宮が祀っております。また、町の南部には平成26年のNHK大河ドラマ「軍師 官兵衛」の最大の宿敵とされる宇都宮鎮房（うつのみや しげふさ）氏が自然の要塞を活かして作った城井ノ上（きいのこう）城址があり、その名残を残しています。

築上町消防団は、7分団491名で構成されています。出水期前の水防訓練や団員の連携強化、消防技術向上を目的とした全体訓練や防火啓発など年間を通じて活動しています。

今年、「築上町男女共同参画ネット」との合同による避難所生活を考えるワークショップでの課題討論や東日本大震災の映画上映会にも参加しました。この活動を通して、これまでは男性の目線で考えていた災害時の避難所運営や消防団活動へ女性の視点を取り入れていく必要性を痛感し、



東日本大震災の映画上映会

女性消防団員のいない築上町消防団にも、女性消防団員の加入に取り組んでまいりたいと考えています。

最近では、地域の自主防災組織の指導員としての役割を消防団が担うことや、様々な地域活動に積極的に参加することなど、消防団員の意識向上と存在感が高まっています。

これからも、安心安全なまちづくりのために、築上町消防団一丸となってしっかりと一翼を力強く担ってまいります。



消防操法大会

平成26年度 全国統一防火標語

「もういいかい 火を消すまでは まあだだよ」

## 3月の日本消防協会関係行事

3月3日（火）	午前	日本消防協会正副会長会議
	午後	都道府県消防協会事務局長会議
3月5日（木）	午後	消防育英会評議員会
3月9日（月）	午後	地震等防災対策委員会
		消防団員確保対策等委員会
		日本消防協会正副会長会議
		全日本消防人共済会理事会
3月10日（火）	午前	日本消防協会定時理事会
		日本消防協会評議員会
		全日本消防人共済会総代会
	午後	全国消防大会・第67回日本消防協会定例表彰式

## 編集後記

今年の成人式のニュースでは、神戸の新成人の「私たちは、阪神・淡路大震災があった年に生まれ、復興の歩みとともに成長してきた。震災を知る最後の世代として、この震災を伝えて行かなければならない。」との二十歳の誓いが取り上げられていました。

かつての被災地神戸とは遠く離れた場所ではありますが、私の娘も同じ年に生まれ今年成人式を迎えました。この誓いのことばを聞いたとき、この20年という年月の重さに同じ年の子を持つ親として、感慨深い思いに駆られました。

日本各地では、阪神・淡路大震災以降も、災害は後を絶たないどころか、想定外の被害を及ぼすような災害が多数発生してきました。しかし、どの被災地でも、決して諦めずに防災と復興への歩みを確実に進めています。

神戸の新成人の思いと同じく、日本消防では、地域防災の充実強化に努める消防団の活動を伝え、より強固な防災体制の推進に貢献できればと思っています。

(T.S)

## 購読募集

購読を希望される方は、(公財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料 (送料込) 2,448円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

## 寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十八巻第二号  
平成二十七年二月五日印刷  
平成二十七年二月十日発行

編集人 生嶋 文昭

発行所 日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目九十六

電話 〇三(3503)一四八一(代)

印刷所

東京都文京区湯島三丁目二十一十二

日本印刷株式会社

電話(383)六九七一(代)

# 消防団員・消防職員の皆様の火災共済

消防団員  
消防職員  
ならどなたでも  
加入できます

まさかの時お役に立ちます。

風水雪害等共済金付

掛金25口、2,500円 (56%以上の焼損)  
火災共済金375万円のお支払い

## 1500倍補償

### B型火災共済

**消防団  
消防本部** 毎に皆で加入

キャンペーン期間中B型火災共済に加入しますと、テントを消防団等に配布します。

(加入者100人以上または、掛金10万円以上が対象)

掛金は、5口500円から5口毎、25口2,500円まで選択できます。

落雷の損害  
にも対応!!

建物と動産の配分は常に4:1とする契約となります。

お申し込みは、所属の消防団担当から都道府県支部（消防協会）へ。



(三方の横幕も付属します。)

お支払  
対象

●火災共済金

火災・落雷・爆発・破裂

●風水雪害等共済金

風災・水災・雪災・車両飛び込み・航空機墜落等

生活協同組合 全日本消防人共済会 TEL 03-3503-1439  
詳しくはホームページをご覧ください <http://www.shouboujin.or.jp/>

消防団員・消防職員だからこそ加入できる

## 消防個人年金

積立金には予定利率（年1.25%）+配当率が適用されます。

老後生活に向けた  
計画的な財産形成  
が可能です。

月払の場合、  
毎月一万円（ゆうちょ  
銀行は五千円）から  
ご加入いただけます。

給付金の受取りは、  
年金（5種類）又は  
一時金からご選択  
いただけます。

途中で脱退しても、  
積立金（脱退一時金）  
が受け取れます。

税制適格コースは  
個人年金保険料控除  
自由選択コースは  
一般の生命保険料控除  
の対象となります。

消防団員、消防職員  
の退団・退職後も  
継続できます。

（お問い合わせ先）公益財団法人 日本消防協会 年金共済部

### 0120-658-494

平日 9:00~17:00